

第3回

資料 1

平成 26 年度文部科学省事業『学校と地域の新たな連携体制構築のための実証研究事業』

沖縄教育協働研究推進委員会

○会議名	平成 26 年度文部科学省事業「学校と地域の新たな連携体制構築のための実証研究」 第 3 回 沖縄教育協働研究推進委員会
○日時	平成 27 年 1 月 15 日(木)13:30-15:30
○会場	若狭公民館研修室
○出席	※会議終了後、記録いたします。

会議次第

1. 開会のあいさつ

- ・沖縄教育協働研究推進委員会 委員代表 井上講四（琉球大学教育学部教授）
- ・資料確認(事務局より)

2. 事業報告

- ①【取組1】推進委員会（第 1 回・第 2 回）
- ②【取組2】実証研究 [大学生インターンシッププログラムの実施]
- ③【取組3】実証研究 [特別なニーズのある子どもへの学習支援の実施]

3. 今後の取り組みについて

- ①【取組4】「地域円卓会議」の開催
- ②【その他】「子育て勉強会」の開催 ※【取組3】に関連して
- ③【参考】『おしごと先生プロジェクト』(H26 年度那覇市商工農水課事業)について

4. ディスカッション

- これまでの取り組み、これからの取り組みに対する意見・アドバイス
- 取り組みの持続可能性について
「若狭エリアに【学校と地域の連携】を推進する拠点を残すには」

事務連絡

1. 第 4 回沖縄教育協働研究推進委員会
○日時:平成 27 年 2 月 17 日(火)16:00-18:00 ○場所:若狭公民館研修室
2. 【お願い】推進委員会[議事録]の確認について
○推進委員会[議事録]につきましては、事業終了時に文部科学省に提出する報告書に掲載され、公開となる可能性があります。内容についてご確認の上、修正等がございましたら事務局にご連絡ください。

配布資料

- [資料 1] 第 3 回沖縄教育協働研究推進委員会 会議次第
- [資料 2] [報告書][取組1]推進委員会議事録（第 1 回・第 2 回）
- [資料 3] [報告書][取組2]特別なニーズのある子どもへの学習支援
- [資料 4] [報告書][取組3]大学生インターンシッププログラムの実施
- [資料 5] [開催概要][取組4]「地域円卓会議」(概要案)
- [資料 6] [開催概要][その他]「子育て勉強会」(チラシ)※4校に配布済み
- [資料 7] [参考]『おしごと先生プロジェクト』 取り組み紹介

資料2

7. 実証研究の目的・実施内容及び実施方法等

※必ずしも様式に収める必要はないので、詳細に記載すること（別紙を添付することも可）。

取組1 教育協働研究推進委員会の開催

■取組1—「教育協働研究推進委員会」における地域の教育協働体制についての研究・協議

教育協働研究推進委員会において、モデルエリアでの実証研究について方針策定から事業評価までを行い、今後の持続可能性・汎用性についても検討

教育協働研究推進委員会において、後述の【取り組み2】において行われるモデル地域における実証研究の方針の決定、評価指標の検討、成果・課題等の抽出と分析などを行い、モデル検証された地域における多様な主体の教育参画の在り方についての他地域への汎用性や今後の展開についての全4回の推進委員会を開催し、協議を行った。

◆【推進委員会開催概要】

回/時期	内容
11/18(水) 16:00-18:00 @若狭公民館	・本事業の目的等の共有 ・「学校と地域の連携」に対する沖縄県の方向性・成果・課題等の共有と整理 (放課後や土曜授業への施策などの理解)
12/13(土) 9:00-12:00 @沖縄産業支援センター (※公開会議として開催)	【第1部】基調講演 今なぜ「学校と地域の連携」か～先進事例から学ぶ [講師] 杉並区教育長 井出 隆安 様 【第2部】レクチャー 「学校と地域の連携」について国はどう考える [講師] 文部科学省生涯学習政策局社会教育課 地域学習活動企画係長 入江 優子 様 【第3部】公開会議 ○ディスカッション:沖縄における「学校と地域の連携」、今何をどう動くのか
1/15(木) 13:30-15:30 @若狭公民館	実証研究モデルの成果と課題の抽出(中間報告) ・モデル地域における実証研究の進捗状況の共有 ・本実証研究の展開・汎用の可能性についての検討 (モデル地域における継続性・県内他地域への汎用の可能性)
2/17 16:00-18:00 @若狭公民館	[仮]実証研究モデルの継続可能性と他地域波及の可能性について ・事業の進捗状況および成果報告 ・モデル地域における次年度以降の取り組み継続の在り方について検討 ・他地域への汎用・展開における必要性和課題等の把握

資料2

沖縄教育協働研究推進委員会メンバー		
氏名	所属・役職等	備考
井上 講四	琉球大学教育学部 地域教育研究室 教授	委員代表
生重 幸恵	キャリア教育コーディネーターネットワーク協議会代表	
宮城 潤	NPO法人地域サポート若狭 若狭公民館事業部 部長	
山里 望	那覇市立那覇中学校校長	
宮城 祥子	那覇市立上山中学校校長	
與儀 茂	那覇市立天妃小学校校長	
興古田 思信	那覇市立若狭小学校校長	
平良 治	若狭小学校PTA会長	
田端 一正	那覇市教育委員会学校教育部 部長	
照屋 満	那覇市教育委員会生涯学習部生涯学習課	
秋吉 晴子	しんぐるまざーず・ふぉーらむ沖縄 代表	
川畑 彩	NPO法人ELIPO 代表	
佐渡山 要	学習環境補助カイカ堂 主宰	
前泊 美紀	那覇市議会議員	
川上 達輝	琉球大学学生団体IKAROS 代表	
翁長 有希	NPO法人沖縄キャリア教育学校支援ネットワーク	

資料2

平成 26 年度文部科学省事業『学校と地域の新たな連携体制構築のための実証研究事業』

第1回沖縄教育協働研究推進委員会

○会議名	平成 26 年度文部科学省事業「学校と地域の新たな連携体制構築のための実証研究」 第1回 沖縄教育協働研究推進委員会
○日時	平成 26 年 11 月 18 日(火)16:00-18:00
○会場	若狭公民館 会議室

会議次第

【第1部】事業および推進委員会の内容・目的等の共有

- ・委員代表挨拶(井上講四)
- ・資料確認
- ・平成 26 年度文部科学省「学校と地域の新たな連携体制構築のための実証研究事業」事業内容共有
- ・「沖縄教育協働研究推進委員会」内容・目的等の共有
- ・各委員自己紹介・取り組み等紹介

【第2部】ディスカッション

- テーマ1：地域における放課後活動等の充実(学習支援活動)について
- テーマ2：地域における「特別なニーズ」について
- テーマ3：「学校と地域の新たな連携」について
- テーマ4：その他、本研究委員会で協議したいことなどの意見

【第3部】事務連絡

- ・次回会議開催案内:平成 26 年 12 月 13 日(土) 9:00-12:00 (※委員集合 8:45)
- 場所:沖縄産業支援センター3 階中ホール(312 号室)

配布資料

- [資料1] 平成 26 年度「学校と地域の新たな連携体制構築のための実証研究事業」事業計画書
- [資料2] 年間スケジュール
- [資料3] 「学生インターンシップ事業」チラシ
- [資料4] 第2回沖縄協働教育研究推進委員会[公開会議]概要
- [資料5] 『沖縄キャリア教育 EXPO2014』チラシ

議事録

■自己紹介・活動紹介

井上	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3 年前から研究事業に関わり、長く携った経験とネットワークから代表を引き受けさせて頂いた。 ・ 全体像を見直しイメージをつけて、舵取りをしていきたいご協力をお願いします。
生重	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまでは、東京を中心に沖縄・大分と連携してこの文科の事業を進めてきたが、今年は文科省の意向もあり沖縄だけ自立して取り組むことになったが、継続して関わってきたい。沖縄はキャリア教育が進んでいる、地域力を重ねる事で学ぶ意欲を高める。全国各地で課題。小さな公民館発で、大人の知恵をもちより町ぐるみ、社会そうがかりで教育に関わっていくというモデルができるとよい。
宮城	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子ども達に関わって行く中で、中間支援的、後方支援的に繋ぐ役割。地域には想いが有る人がたくさんいるがつながっていない、公民館としてもその役割を担って行きたい。 ・ プレーヤーとしては、今回公民館で学習支援をするということで、学校や地域とのこれまでの公民館の繋がりを生かし関係していきたい。
平良	<ul style="list-style-type: none"> ・ 若狭小学校の PTA 会長、以前は銘苅小学校でも会長をしていた経験がある、本事業は奥が深いとは思いますがシンプルに考え、関わってきたい。 ・ 銘苅小学校 PTCA は、銘苅新都心通り会など地域の事業主が保護者ではないのに参加。そのような中で、紙飛行機大会も立ち上げてきた。何年もかけて回を重ねるごとに、サンエーや沖縄タイムスなども関わり、学校の参加校数も増えてきた。
前泊	<ul style="list-style-type: none"> ・ 寡婦控除の問題等にも取り組み、現場の事情などを知る必要があると感じている。 ・ 宮城さんや秋吉さんとは以前から様々な取り組みで一緒にいることもあり、何か私にできることがあるのならと委員を引き受けた。

資料2

	<ul style="list-style-type: none"> ・目の前にいる困った子ども達の手助け、議会が一丸と成って取り組むべき事な何かを考え取り組んで行きたいと
秋吉	<ul style="list-style-type: none"> ・「しんぐるまざーず・ふぉーらむ」として、任意団体がシングルマザーの支援をしている。月1度若狭公民館でゆんたく会を開催している。 ・今回の取り組みは、
川畑	<ul style="list-style-type: none"> ・生活保護世帯、英語の教室を毎週土曜日に開催。 ・中学校時代2度の転校を経験し、その時に関わってくれた大人のおかげで、その後、留学し大学で心理学を学び、ニューヨークで8年間を過ごす。帰沖したあと子ども達の支援に関わる。 ・私自身の経験から、地域で子どもを育てて行こうという流れは大賛成。
佐渡山	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月5万の娯楽費をひとり足長おじさんとして学習環境補助の場づくりに投資を初めて見た ・2013年に会社経営を委譲してNPOを立ち上げて教育と福祉の共助づくりを始めた
教育委員会 生涯学習課	<ul style="list-style-type: none"> ・石原先生の代理(照屋先生)行政としてどのように関わりを持って行くのか。12月9日にはじめて教育委員会を設置し、那覇市教育の日とした、イベントを通して
教育委員会 学校教育課 外間(代理)	<ul style="list-style-type: none"> ・那覇商工会議所が主体として取り組んでいる文科省事業の委員としても、何名かの方とは一緒にしているが、今後ますます「学校だけ」ではない教育の在り方が問われてくると思う。 ・行政・教育委員会として何が出来るのか？今回は代理としての出席ではあるが、担当にしっかり引継ぎをして共に考えていきたい。
■事業についての説明	
事務局	○本事業の趣旨・実証研究の内容等について
翁長	○今年度の事業スケジュールについて
■ディスカッション	
井上	<ul style="list-style-type: none"> ・本事業の【取組2】【取組3】は、子どもたちをどのようにして選ぶのか？ →[事務局]現状としては、子どもの募集の際に制限はかけず希望者をすべて受け入れようと考えている。検証事業であるため、どのような子どもたちが集まってくるのかも検証事項としたい。
宮城	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館としては、この取組を単発でなく継続的にとらえるならば、「特別なニーズ」の子だけを限定しなくても、その継続的な取組の中で特別なニーズを持つ子たちとの繋がりができ、教えている間に家庭環境や、地域にある「特別なニーズ」などが見えてくると考えている。
佐渡山	<ul style="list-style-type: none"> ・特別なニーズとはどのようなことを指しているのか？ →[事務局]公募要領等からは「特別なニーズ」の定義は読み取れないが、例として、貧困家庭や日本語指導が必要な子ども等が挙げられてはいる。地域における「特別なニーズ」を検証し定義することも、実証研究の一部と捉えてもよいと思う。
生重	<ul style="list-style-type: none"> ・「特別なニーズ」ということであれば、数々ある中でも全国的に今後大きなテーマとなってくるのは「貧困」。今後は、小学生・中学生への支援はもとより、高校生に対しての「貧困家庭」が背景にあることを前提として施策や支援も多くなっていく傾向がある。 ・また、一日1食しか食べられていない子どもがいる、発達障害の子どもたち、教室に入れない子ども達もいるなど、「特別なニーズ」は多岐にわたるが、どちらにしても「学校を核とした」連携を地域でつくり、放課後の時間利用、学校の意識を変えていくなどが必要。 ・本人の意志さえあれば学ぶ事ができるという形、地域において組織化、準備をしていくということがとても大切。行政では手が届かない、地域ニーズを網羅していき、こうやって地域でネットワークを作るきっかけにこの事業や、この推進委員会が担ってほしいと思う。
宮城	<ul style="list-style-type: none"> ・学校への連携呼びかけは、上山中学校・那覇中学校・若狭小学校・天妃小学校の4校。若狭公民館の管轄エリアとしては、曙小学校エリアまでも含むが距離的に子どもたちの徒歩圏内にないことから今回は呼びかけていない。これも課題。 ・声掛けをした学校は、公民館として接している限り地域との連携は必要だと感じているよう。少なくとも校長先生は。しかし、学校に地域を信頼してもらうことも大切。昨今は、個人情報などの問題もあり、学校もむやみに「課題のある子」として外部に情報を出しにくい。なので、地域側も地域側で状況を把握する努力は必要だし、学校との信頼関係をもっと築く必要がある。
佐渡山	<ul style="list-style-type: none"> ・学校と地域の連携を考える上で社会福祉協議会との連携をされてはどうか。那覇市社会福祉協議会では発達障害サポーターボランティア講座をされているが、学習支援ヘルパーと違って生徒の横で学習支援をすることができず、廊下からの「見守り」になってしまっている ・県内実業高校にて非常勤講師をしており、学校の先生方には間接業務としての助手がないので自分の受け持つ科目指導準備で手一杯な様子が見うけられる。 ・学校の先生のサポートを考えた連携を模索してはどうだろうか？
生重	<ul style="list-style-type: none"> ・私もこのような仕事を長年やってきているが、学校業界に福祉業界を急に結ぶことも難しい。 ・本事業の中では、期間も限られているので、まずは地域の中でサポートする仲間をつくり、その後継続的に学校との強固な連携に踏み入れていく必要がある。 ・佐渡山さんの提案も同時進行で進め、社会福祉協議会と連携を持つておくのはいいと思う。 →[事務局]本事業の期間を考えると3月までの取り組みだが、今年度以降の継続性を考えるとすれば、佐渡山さんの提案の通り、社会福祉協議会を推進委員としてお願いしておくほうがよいかも。声掛けをする方向で調整したい。
宮城	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の実情としては、社会福祉協議会をはじめとして、民生委員、児童委員、子ども達の支援をしたいという人はいる。課題としては、「地域活動」に関わる世代が限られており高齢者の参加が多く、親世代に

資料2

	<p>リーチすることが難しく感じている。</p> <ul style="list-style-type: none"> また、「地域」という定義も難しい。那覇市が推進しているまちづくり協議会は「小学校区」、青少協は「中学校区」など、取組などを共有しようとすると「どのくらいで？」となることが多く、情報共有や協働もしにくいことでそれぞれの団体の本来の役割が発揮できていない気がする。 また、「まちづくり」というテーマが広く、それぞれの役割をうまくかみ合わせて「学校と地域の連携」の体制を組みたくても、話し合われることが「子どものこと」に辿りつかないことが多い。 また、貧困世帯の話も出たが、「そこは家庭の問題でしょ」という社会全体の意識や感覚も変えていかないといけないと感じる。「そこは家庭の問題」としては、子どもたちに降りかかっている本来の問題を拾い上げることができない。
秋吉	<ul style="list-style-type: none"> このような支援施策をする時いつも課題となるのは、本当に来て欲しい人(子ども達)はこない。本当に支援が必要な家庭も、課題や階層が様々であり、手が届かないことが多い。親も子ども地域とつながることができないことで、貧困の連鎖が起こっているケースも多々ある。これは沖縄だけの問題だけでなく、永遠の課題のようにも感じるが、このような取り組みを通して、子どもをきっかけにその家庭にリーチできるのはいいと思う。 →[宮城]確かに。公民館としても、本当に必要な人に必要な支援をしようとすると、公民館の開館時間では収まり切れないと感じ、開館時間外にセミナー等を組んだこともある。
前泊	<ul style="list-style-type: none"> 行き届かないという点でいうと、学習支援の場所は「学校」がいいのでは？子どもたちが移動なくていいという点で、学校内の方が良いのでは。
川畑	<ul style="list-style-type: none"> 学校側の意識や課題も知りたい。 私自身の取り組みも、学校に働きかけた際に、校長先生や管理職の方は理解を示しても、担当の先生や学年におろしていった時に、実現しない状況がある。実施できない背景にどのような課題があるのかをきちんと理解したい。そういう意味では、私も学校で放課後実施するほうがいいと思うのだが。 担当の先生たちに、子どもたちがこんな風になるんだということを知って頂ければ実施ができるのかもしれないのだが、「学校と地域の連携」は入り口が難しいと感じている。 →[事務局]第2回以降は本委員会にも、若狭エリアの学校(学校長)にも参加して頂く。学校がただ拒んでいると考えるのではなく、学校や現場の先生方の現状なども理解できる場にしていきたい。
?	<ul style="list-style-type: none"> 「空き教室利用」とよく言われるが、学校の教室利用がうまくいっている例は少ない。子どもたちの安全管理や施設管理という点で、うまくシステムが作れていないのが課題。 地域も学校との信頼関係ができていない、有効活用ができない理由のように思う。学校や教員の声にも耳を傾ける必要がある。
翁長	<ul style="list-style-type: none"> 学校を拠点に行う必要のある取組であるか、学校外でやってもいい、もしくは、学校外の方がいい取組であるのか、はこの事業でもよく検討していきたい。 福井市などの例を見ると、公民館が小学校区にひとつあるなど、社会教育施設が充実している。沖縄では学校の役割として学校が中心になって行っていることを、福井では公民館が主体となって行っていたりする。学校が「教育の場」という認識ではなく、地域社会もしっかり教育の場として認識されている。 沖縄では公民館の数なども少ないので福井とまったく同じという訳にはいかないが、沖縄なりの「社会教育」の充実のさせ方を模索したい。
井上	<ul style="list-style-type: none"> 公民館がネットワークの中心、将来の社会教育の在り方、公民館と学校の連携アピールする、 学校長の学校運営。
平良	<ul style="list-style-type: none"> 親としての想いとしては、やはり学校が、落ち着いた学べる場所であったり、例えば団体行動の中で社会性を身につける指導をもらえるのはありがたい。子ども達は学校で過ごす中で、いじめられていないかなどが心配になるのも親の純粋な心配ごと。 「学校と地域の連携」ということをテーマに話し合う中で、学校の役割は何か、地域の役割は何かをシンプルに考えていきたい。 PTA 組織の中で活動をしているが、親は子どものためなら何でもできる。その力をうまく生かすことができるようなことができると、地域にとってもそれは凄い力になると思う。 地域全体として、未来の宝物を大切に育むためには、対面ではなく、同じ方向を向いて同じところを目指す連携のきっかけを作ることはできると思う。
生重	<ul style="list-style-type: none"> 品川等にも生活困窮世帯がある。全国の課題。品川や別府などでも同じ課題はみられるので、数学研究検定等、遊びを通じて学びの楽しさを知るプログラムなどを開発し、そのプログラムを指導できる人材も地域に育成しようとする取組もしている。沖縄にも、そのプログラムはぜひ紹介したい。 今回のこの推進会議には可能性を感じる。PTA や地域が学校の声に耳を傾け、地域としての課題を公民館での取り組みを呼び水として「特別なニーズ」にリーチし、そして、前泊さんや教育委員会の立場として、その現場の声を拾って施策に生かしていく。学校も地域も行政も、社会総がかりでないとこれからは難しくなるので、今後もこの取組に期待したいし全力で応援していく。

資料2

平成 26 年度文部科学省事業『学校と地域の新たな連携体制構築のための実証研究事業』

第 2 回沖縄教育協働研究推進委員会

○会議名	平成 26 年度文部科学省事業「学校と地域の新たな連携体制構築のための実証研究」 第 2 回 沖縄教育協働研究推進委員会 ～今、なぜ「学校と地域の連携」か～先進事例と国の動向から考える～
○日時	平成 26 年 12 月 13 日(土)9:00-12:00 ※『沖縄キャリア教育 EXPO2014』内にて「公開会議」として開催
○会場	沖縄産業支援センター3 階中ホール(312 号室)
○内容	H26 年度文部科学省事業において設置する「学校と地域の新たな協働体制構築のための研究会」の第 2 回会議を公開会議とし、同研究推進委員会メンバーおよび教育委員会や学校関係者と今後ますます求められる「学校と地域の連携」の在り方について考える場を共有する。第 1 部として、杉並区教育長井出氏の基調講演を行い、コミュニティスクール等を中心とした「学校と地域の連携」の先進的事例を共有し、第 2 部公開会議への議題へつなげていく。

会議次第

【第 1 部】基調講演

○開会の挨拶

・沖縄教育協働研究推進委員会 委員代表 井上講四（琉球大学教育学部教授）

○本事業の内容確認

・資料確認

・平成 26 年度文部科学省「学校と地域の新たな連携体制構築のための実証研究事業」事業内容共有

・「沖縄教育協働研究推進委員会」内容・目的等の共有

○基調講演：今なぜ「学校と地域の連携」か～先進事例から学ぶ

【講師】 杉並区教育長 井出 隆安 様

【第 2 部】国の方向性について学ぶ

○レクチャー：「学校と地域の連携」について国はどう考える

【講師】 文部科学省生涯学習政策局社会教育課 地域学習活動企画係長 入江 優子 様

【第 3 部】公開会議

○ディスカッション：沖縄における「学校と地域の連携」、今何をどう動くのか

配布資料

[資料 1] 第 2 回沖縄教育協働研究推進委員会 会議次第・委員名簿

[資料 2] 平成 26 年度「学校と地域の新たな連携体制構築のための実証研究事業」事業概要

[資料 3] 【基調講演】『いいまちはいい学校を育てる』学校づくりはまちづくり(杉並区教育長井出隆安)

[資料 4] 【事業説明】『学校と地域の連携について』国はどう考える(文部科学省入江優子)

[資料 5] 【事業説明】「土曜学習応援団になりませんか？」(文部科学省)

資料4

7. 実証研究の目的・実施内容及び実施方法等

※必ずしも様式に収める必要はないので、詳細に記載すること（別紙を添付することも可）。

取組3 インターンシップ研修カリキュラムの開発

■取組3—連携体制構築を支える「地域課題解決型大学生インターンシップ」の研修カリキュラムの開発

大学生（特に教職志望学生）に対する『地域課題解決型教育インターンシップ』のインターンシッププログラムを公民館や地域課題解決をテーマにしたNPOと共に開発

近年、社会環境の変化等に起因しこどもを取り巻く課題なども多様化する中、これらの課題への対応を学校だけに任せるのではなく「地域のこどもは地域で育てる」ための気運作りが進められ、学校においても「開かれた学校」「学者融合」「キャリア教育」などをキーワードに、学校と地域人材・地域企業などとの連携が推進されているが、教職志望の学生らが教員になる以前にこれらの地域課題やステークホルダーとなる団体等と連携した活動に触れる機会はほとんどない。社会全体の傾向として、職業やはたらき方の多様化の傾向を受け、インターンシップも様々な形態が生まれる中、本事業では、大学生らが公民館などの社会教育施設やNPOなどと連携して地域課題に取り組む『地域課題解決型教育インターンシップ』のインターンシップカリキュラムを開発、

この研修プログラムの開発により、大学や大学生にも本事業で検証する「多様な主体が参画する連携体制」に対する参画の意義を創出することができ、より多くの大学や大学生の参画を促すことが可能となる。また、一般的に地域課題等をテーマにしたNPO法人や団体などは恒常的にマンパワー不足などの悩みを抱えており活動の幅を広げられない現状が見られるが、教育に興味のある大学生を人的資源として活用できることでこれらの課題解決にもつながる。団体にも大学生にもウィンウィンな関係性を創り出すことにより、連携の円滑化を図る。

募集について

[学生インターンシップ募集のチラシ]



- ◆配布部数:200部
- ◆周知・配布方法:
 - ①県内大学の学生団体等へ協力依頼
 - ②フェイスブック等での発信
- ◆応募者数:10名

教育実習では得られない貴重な体験ができる！ これからの教育に必要なことがリアルに学べる！！

インターン生自らが授業を考える、チームで取り組むから心強い
今教育現場で求められる「地域連携型の授業(キャリア教育)」づくりが学べる
少人数制だから、生徒一人一人と向き合える
沖縄初の文部科学省事業

募集要項
仕事内容 : 小中学生の放課後学習支援、授業内容の企画
募集対象 : 将来教育関係に進みたいとお考えの方
参加資格 : 県内大学生なら誰でもOK
勤務場所 : 若狭公民館(交通費支給)
勤務日時 : 12月～2月の毎週金曜17時～21時(年末年始除く)
参加方法 : メールにてご応募ください

【姓名】「放課後学習プログラム参加希望」
【本文】氏名、大学名、学部名
以上の内容11月21日までにお送りください。

11月29日(土)
キックオフセミナー
開催!



学生団体IKAROS 担当:原田明久
akihisa.h.billionaire@gmail.com
080-8566-9110

主催:平成26年度文科省事業
「学校と地域の新たな協働体制構築のための実証研究事業」
沖縄教育協働研究推進委員会

資料 4

[インターンシップ参加学生の属性・志望動機等]

番号	所属大学	学部・学科	学年	性別	教職希望	志望動機
1	琉球大学	教育学部子ども地域教育コース	1	女	小学校	以前から学習支援のボランティアを探していた。
2	琉球大学	教育学部子ども地域教育コース	1	男	小学校	実際に子供・児童と接する経験が無い為、「教育」に関わるといふ実感がほしい
3	琉球大学	教育学部子ども地域教育コース	1	男	小学校 幼稚園	今まで自分が経験したことのないもの、特に教育関係のものを多くやってみたいと考えて参加を決めました。
4	琉球大学	法文学部人間科学科	1	男	中学校	様々な授業を持つことを経験し、授業外でも生徒とコミュニケーションを取る機会を得たいと考えていた。
5	琉球大学	理学部海洋自然学科	1	男	なし	面白そうだから。
6	琉球大学	教育学部子ども地域教育コース	1	女	小学校	地域の人々とともに子供たちを育てるということにきょうみがあるから
7	琉球大学	教育学部子ども地域教育コース	1	男	小学校	将来に役立てるため
8	琉球大学	教育学部子ども地域教育コース	1	女	中学校	日頃から子供と関わる機会が少ないので将来に役立つと思ったから
9	琉球大学	法文学部国際言語文化学科	1	女	中学生	教職の授業で聞いて面白いと思ったから
10	琉球大学	法文学部	1	女	中学生	将来の夢を叶えるために役立つと思ったから
11	琉球大学	観光産業科学部産業経営学科	1	男	なし	地域と学校と大学生を繋げるプロジェクトに興味を持ちました。
12	琉球大学	観光産業科学部産業経営学科	1	男	なし	小、中学生の新しい放課後の居場所を作りたい。
13	琉球大学	観光産業科学部産業経営学科	1	男	なし	既存とは違った形での学習支援を考えたいと思った。
14	琉球大学	工学部機械システム工学科	1	男	なし	子ども達の学習意欲の向上に貢献したい。

インターンシップカリキュラム開発と実施について

◆[インターンシッププログラム(研修プログラム)(案)]

事前研修		
事前研修① 11/29	学習支援の必要性と基礎の理解 ① 本プロジェクトの趣旨・内容の理解 ② 学習支援にむけての「基礎」の理解	① 学生団体 IKAROS ② NPO 学習環境補助カйка堂 主宰 佐渡山要
事前研修② 12/12	児童生徒の現状の理解(ディスカッション) ① 沖縄の学力について考える ② 学習支援の在り方について考える	学生団体 IKAROS
定例研修 ▶毎週の学習支援終了後に振り返りも含め実施(約1時間半)・一部外部講師招聘		
毎回振り返り	※毎週の学習支援の状況を振り返る (全10回約1時間半)	学生団体 IKAROS
特別研修 1/16	「学習支援者」としての在り方・考え方の理解 ○学習支援を実施して感じた課題の把握 ○アドバイザーと課題解決にむけたディスカッション	NPO 学習環境補助カйка堂 主宰 佐渡山要
特別研修 1/23(仮)	地域資源を活用した授業プログラムの作り方 ○「学び」と「社会」をつなぐ地域連携型授業の理解 ○学力向上との関係性	NPO 法人沖縄キャリア教育学校 支援ネットワーク 代表 翁長有希
特別研修 2/7(仮)	学校の現状の理解と「学習支援」の必要性 ○学校の理解・児童生徒の現状 ○学習支援に求めたいこと	(仮)那覇市立若狭小学校 校長 ※これから依頼
特別研修 2/21(仮)	「地域」の理解と地域課題解決の視点 ○公民館の役割と地域の理解 ○学校と地域の連携における地域課題解決の展望	(仮)若狭公民館 宮城潤 ※これから依頼
アドバンス研修 ▶地域の保護者向けセミナーとの合同開催		
アドバンス研修 1/18(日) 15:00-16:30	入試いらずの高校入試対策と理解 ・今どきの小学生・中学生の理解 ・高校入試に必要なこと	NPO 学習環境補助カйка堂 主宰 佐渡山要
アドバンス研修 1/25(日) 15:00-16:30	家庭での子ども学習支援 ・家庭教育に必要なこと ・「まなび」の段階(守破離)	NPO 学習環境補助カйка堂 主宰 佐渡山要
アドバンス研修 2/7(土) 15:00-16:30	子育てお母さんの困った時の裏ワザガイド ・ケース会議 ・地域でできること	NPO 学習環境補助カйка堂 主宰 佐渡山要
事後研修		
STEP9 事後研修 2月	【活動】取り組みの成果検証と成果報告 ○アンケート等の集計・成果の検証 ○成果報告会による実践成果報告	・大学生

資料 4

平成 26 年度文部科学省事業『学校と地域の新たな連携体制構築のための実証研究事業』

研修記録

○研修名	大学生インターンシップ [スタートアップ研修]
○日時	平成 26 年 11 月 29 日(土)10:00-18:00 (1時間休憩)
○会場	沖縄産業支援センター4F OCEAN21 研修室

会議次第

【第 1 部】オリエンテーション

- ・本事業関係者の紹介
- ・インターンシップ生の自己紹介(新任教師になりきって)
- ・調査書の記入

【第 2 部】講義「塾現場からの学習補助の事例紹介」～人見知りの講演会～

講師:NPO 学習環境補助カイカ堂 主宰 佐渡山要

【第 3 部】

- ・インターンシップ事業内容説明
 - ・[ディスカッション]講演会を聞いての感想
 - ・[まとめ]「なぜ今、学校と地域の連携か」～社会背景から本インターンシップの意義の確認～
- 講師:NPO 法人沖縄キャリア教育学校支援ネットワーク 代表 翁長有希

配布資料

■ 講師資料

- [資料 1] 学習環境補助カイカ堂「学習アシスタント養成講座」概要
- [資料 2] 【参考資料】『第 7 回九州沖縄地区子ども支援ネットワーク交流学習会』配布資料
- [資料 3] 【参考資料】『おきなわ子ども支援ガイドブック』(2013 年那覇市版)
- [資料 4] 【参考資料】『NPO 学習環境補助カイカ堂だより』(第 1 号)

研修内容詳細

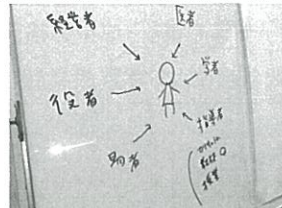
【第 2 部】講義

【流れ】

- 起：前提条件確認(自己紹介と参加動機確認、セミナーの目的共有)
- 承：課題定義(事業背景とイメージアニメ)
- 転：事例紹介(六要素とアシスタント養成講座の解説)
- 結：まとめ、質疑応答

【内容】

- ① 塾経営の経験から
 - ・09 年の教育業界の状況→少子化、母子家庭 25%、教育従事者約二万人(産業統計資料)
 - ・塾四年目からの変化→母子家庭の増加、会費を払えなく通塾を断念される生徒の増加、学習障害児の増加
 - ・塾五年目からの取組→NPO 設立、発達障害の実情調査、高齢親とひきこもり者の社会復帰、早期療育と教育
 - ・今後の事業イメージ →通塾が困難な児童生徒へ学習環境の提供(イメージアニメ紹介)
- ② 学習支援に役立つ考え方や理論
 - ・学習環境提供する為に必要な 6 要素(医者、学者、指導者、易者、役者、経営者)
 - ・効き脳チェックとアウトプットインプットの違い確認、VAK モデルによる学習効果向上のヒント紹介
 - ・できない生徒の特徴と対策 →テスト対策ケア

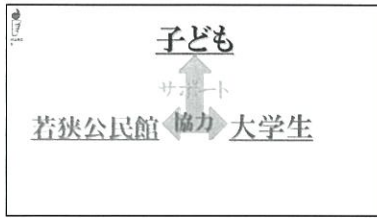
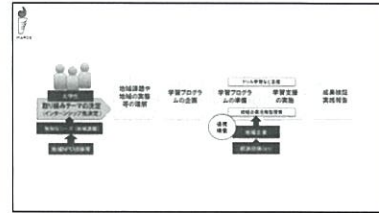


【第3部】事業内容の共有とディスカッション

[事業プログラム内容の説明]

学校と地域の
新たな連携体制構築のための
実証研究事業

事業のねらい
「地域の子どもたちは地域で育てる」
「開かれた学校」



インターン生にとってのねらい
・生徒一人一人と向き合う時間
・自ら授業内容を考える機会
現在の教育実習では得られない経験



[学習支援の流れなどの説明]

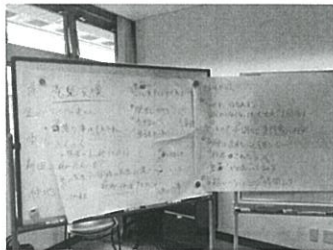
場所 若狭公民館研修室
日時 12月12日、9日 1月9日、16日 1月23日、30日 2月6日、13日 2月20日、27日
全て 19:30~21:30
服装自由
※自分が「学校の先生はこれだ」と思う服装で参加してください。

12.12 第1回 第2回 第3回 第4回 第5回
①
第6回 第7回 第8回 第9回 第10回
②
①主に生徒の学習サポート、コミュニケーションをとる。
②インターンシップ生が授業を作成する。

これからのインターンシップを通して実践し、
将来の糧にしてください！！

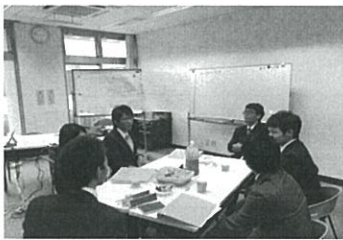
[ディスカッション]

[テーマ1] 今日の研修の内容について



- ・学校の先生は塾の先生と違い、生徒を数字で評価する為に嫌われることが多いという意見もあるが、それが先生の仕事だと思う。
- ・実際に自分たちが受験生のころを思い出して、自分が経験した勉強や暗記のやり方について意見交換をした。
- ・生徒に依存されるのではなく、「先生がいなくなっても大丈夫」を目指すべき。
- ・教師にはできないこともあり、専門の人に頼ることも必要。
- ・宿題は時間の無駄になる可能性が高い。

[テーマ2] 今までの先生、これからの先生



- ・なりたい先生の理想像は、自分が今まで出会った先生の中から作られていくのではないか。
- ・一人一人を主役にして、自分の得意なことなど、自分自身のことを知ってもらう機会を作り、子供たちに自信を与える先生を目指したい。
- ・生徒の経験を認めてあげる先生を目指したい。
- ・先生は自分の教える教科の専門性を高める経験(留学等)を積むべき。
- ・生徒の夢や目標に「無理」と言わない先生を目指し、夢を持たせてあげたい。職業の情報を提供して、夢を探しやすい環境を作ることが大切。
- ・今は教師間のコミュニケーションが減っているのではないか。

資料 4

アンケート集計結果

Q1、教育職員免許状を取得する予定ですか。(回答者5人)

◆はい 4人 ◆いいえ 1人

Q2、Q1で「はい」と答えた方に質問です。取得しようと考えている教員免許の種類をお答えください。(複数回答可)

◆幼稚園 1人 ◆小学校 3人 ◆中学校 1人

Q3 このプログラムに対する意気込みをどうぞ。

- ・小学校の先生になりたいと思いつつも日常生活で子どもと接することはほとんどなくて、正直自分が先生に向いているかどうか自信はないです。でも、人と関わっていくことは好きなので、このプログラムで出会える子ども達や他のメンバーともいい関係が築けたらいいと思っています。
- ・多くの失敗があると思いますが、改善していこうと考えていますので、よろしくお願いします。

Q4 キックオフセミナーに参加して、インターンシップについての理解が深まったと思いますか?(回答者4人)

◆とても思う 2人 ◆思う 2人 ◆どちらともいえない 0人 ◆思わない 0人 ◆全く思わない 0人

Q5 インターンシップについてわかったことについてお書きください。

- ・文部科学省がどのような意思を持って取り組むプロジェクトかというのを理解した。
- ・学校と地域を繋ぐということの意味・時代の流れに合わせた教育をしていかなければならない。そのきっかけになるプロジェクトであるということが理解できた。

Q6 今回の講演会の感想をお書きください。

- ・今後役に立つ話が多かった。「一人に対し、六人の支援が必要であること」「付かず離れず、支援を断ち切る」という言葉に驚いた。助けを求められると全力で何もかもやってあげたい気持ちになるけど、それではいけないのだと思った。「テストの返却時に、できる生徒は“×”を見て、できない生徒は“○”を見る」というのは、中学から高校で、できる生徒からできない生徒にシフトした私にきれいに当てはまった。ワンコインの塾というのは、経済的にも生徒の勉強以外の成長にもとても役立つ場所だと思った。
- ・普段意識していなかった授業でのモデルや接し方など、初めて知ることが多くあった。話を聞く中で、自分が通ってきた学校の中ではそういった配慮は全くされていなかったなと思った。
- ・今回は、いろいろな教育への携わり方、特に塾の講師の目線からの考え方を学ぶことができた。特に、visual、listening、feelingの部分を見分けるのがとても興味深かった。
- ・今回の研修で、自分が将来どのような教師になるかの参考になると思った。「六人の支援」の話を聞いて、もちろん一人でやるには限界があるかもしれないので、多くの人の助けを求めたりしていきたい。

Q7 今回の講演会はあなたの望んでいた内容だと思いますか?(回答者3人)

◆とても思う 2人 ◆思う 0人 ◆どちらともいえない 1人 ◆思わない 0人 ◆全く思わない 0人

Q8 Q7の理由をお聞かせください。

- ・得るものが多かった。キャリア教育について理解が深まったように思う。
- ・教育者や子供の対応の仕方などを教えてもらい、これからの教育に重要なことだと感じる事ができた。

Q9 ディスカッションについての感想をお聞かせください。

- ・メンバーと意見を交換する中で、今の自分の考え方の立ち位置・意識を確認することができた。
- ・色々な人の話を聞いて視野が広がったけど、自分の意見を否定されたら、心がへこんでしまった。その意見も自分の考えに入れて強くなっていきたいです。
- ・実際に教員を目指している方々の意見・考え方を聞けたので、自分の中にも取り入れていきたい。

資料 4

平成 26 年度文部科学省事業『学校と地域の新たな連携体制構築のための実証研究事業』

研修記録

○研修名	大学生インターンシップ [スタートアップ研修②]
○日時	平成 26 年 12 月 12 日(金) 19:30 - 21:00
○会場	琉球大学附属図書館 グループ学習室

会議次第

【第 1 部】オリエンテーション

・沖縄の学力の現状を把握(全国学力・学習状況調査における過去五年分の沖縄県のデータ)

【第 2 部】ディスカッション①「沖縄の学力について」

ファシリテーション:IKAROS

【第 3 部】ディスカッション②「もし自分が教員になったら」

ファシリテーション:IKAROS

研修内容詳細

第一部

・全国学力・学習状況調査における過去五年分の沖縄県のデータを提示

第二部

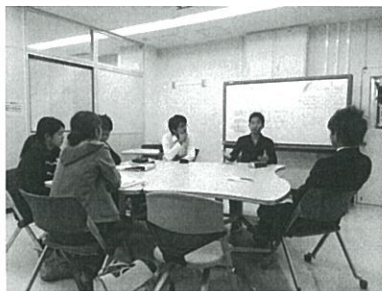
第一部のデータをもとに「沖縄の学力について」のディスカッション



- ・最下位という順位を目にするとやる気がなくなる
- ・沖縄の子どもが遅くまで外にいる
- ・悲観になる必要はないのでは？
- ・小学校の頃、沖縄の学力が低いことを知らなかった

第三部

「もし自分が教師になったら」というテーマでディスカッション



- ・子どもが好きな事に熱中する時間を取り入れたい
- ・集中力、楽しさを重視する
- ・勉強に対する一歩目を変えたい
- ・教師は待っている姿勢が望ましい

アンケート集計結果

- 1、 本日の研修を終えて、新しい気づきがあれば教えてください。
 - ・なかなか他の教員志望の人たちとディスカッションする機会がなかったので貴重な経験になった。
 - ・インターンに対する意識が高まった
- 2、 本日の研修の中で、印象に残った言葉を書いてください。
 - ・「ななめの関係」。教員でもなく、親でも先輩ない関係とは何だろうと思った。
 - ・「学力問題」。現場の意識と自分たちの意識に差を感じた。

資料5

平成26年度文部科学省事業『学校と地域の新たな連携体制構築のための実証研究事業』

地域円卓会議

○取組名	[地域円卓会議] 若狭公民館で考える「学校と地域の連携」の可能性(仮)
○日時	平成27年1月15日(日)14:00-17:00
○会場	若狭公民館ホール
○内容	◆杉並区における「コミュニティースクール」や「学校支援本部」の事例を学び、沖縄における「学校と地域の連携」のあるべき形を考える

会議次第(案)

○開会の挨拶

・若狭公民館 館長

【第1部】基調講演(30分)

○基調講演:今なぜ「学校と地域の連携」か～先進事例から学ぶ(仮)

[講師] 杉並区教育委員会 中曽根 様

【第2部】円卓会議

①セッション1(50分)

○※論点提供:「

[提供者] NPO 法人地域サポートわかさ 公民館事業部部長 部長 宮城潤

②セッション2(会場セッション)(20分、発表20分)

○※テーマ:わが町の「学校と地域の連携」の理想の姿、実現するためにできること(仮)

③セッション3(50分)

円卓着席者(案・調整中)

- [論点提供] NPO 法人地域サポートわかさ 公民館事業部長 宮城潤
- 那覇市教育委員会
- 那覇市教育委員会教育委員長 添石幸伸
- 那覇市まちづくり協働推進課
- 若狭小学校区まちづくり協議会
- 一般社団法人キャリア教育コーディネーターネットワーク協議会 代表理事 生重幸恵
- 那覇市立若狭小学校 PTA 会長 平良治
- ※その他検討

配布資料

[資料1]

[資料2]

[資料3]

[資料4]

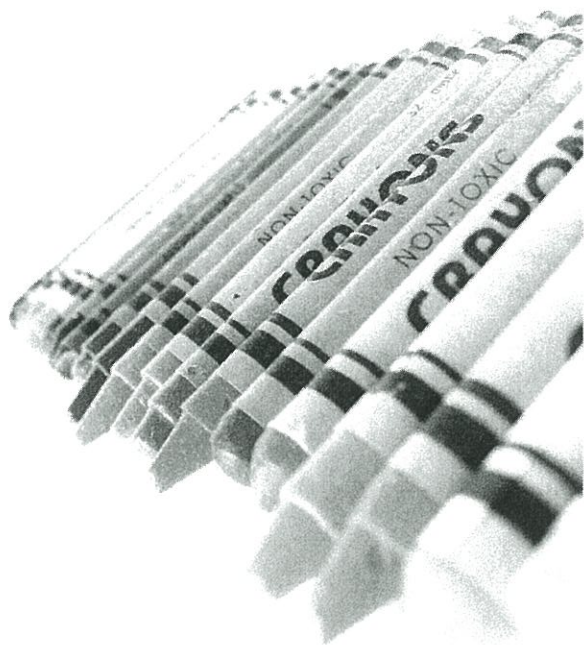
[資料5]

参加費無料

子育て勉強会

～ 子育てをとおして豊かな時間を ～

学校の勉強についていけない
 家庭学習の習慣付けができない
 病気療養で勉強に困っている
 悩んでいるけど相談できる人がいない
 塾に通っているが成績があがらない
 つい感情的になってしまい子供と話すことができない
 高校入試についてもっと詳しく知りたい
 でも誰に聞いたらいいか、、、



塾講師経験8年、就労訓練講師3年、民間経験10年の経験をふまえてご家庭での勉強相談から県内進学相談を含めた勉強会です

何か一つヒントをお持ち帰り頂ければ光栄です

回	【第1回】	【第2回】	【第3回】
日時	平成27年1月18日(日) 15:00～16:30	平成27年1月25日(日) 15:00～16:30	平成27年2月7日(土) 15:00～16:30
内容	塾いらずの高校入試対策と 学校理解 <ul style="list-style-type: none"> ● 今時の中学生 ● 高校入試に必要なコト 	家庭での子ども学習支援 <ul style="list-style-type: none"> ● 家庭教育に必要なコト ● 学びの階段(守破離) 	子育てお母さんの 困った時の裏技ガイド <ul style="list-style-type: none"> ● ケース会議 ● 地域でできるコト
講師	佐渡山 要	佐渡山 要	佐渡山 要・具志 憲人
定員	10名	10名	15名
会場 問合せ 諸注意	若狭公民館(那覇市若狭2丁目12-1) TEL 098-917-3446 ※電話でのお問合せは、月～金 9:00～17:00までとなります。 ※駐車場がございません。恐縮ですが公共交通機関あるいは民間駐車場をご利用ください。		

----- キリトリ提出 --- FAX 098-869-8624 --- メール info@cs-wakasa.com ---- いずれかでご提出ください -----

【参加希望を()に記入】 ○参加 △遅刻 X欠席	第1回() 第2回() 第3回()
【お名前】	(氏名) (フリガナ)
【連絡先】	(自宅) (携帯電話)
【お子様の学年】	
【要望】	

お名前・連絡先などの個人情報は、勉強会への参加案内に利用し責任を持って取り扱いいたします。

カッコいい大人との出会いの場、語り合いの場をより多くの子ども達に。

「生き方」との出会いが 子どもの未来を創る！

地域ので子どもの未来を創る「沖縄まるごとおしごと先生プロジェクト」おしごと先生キャラバン事業

子どもの未来を地域全体で支える！ 「生き方せんせい」募集中

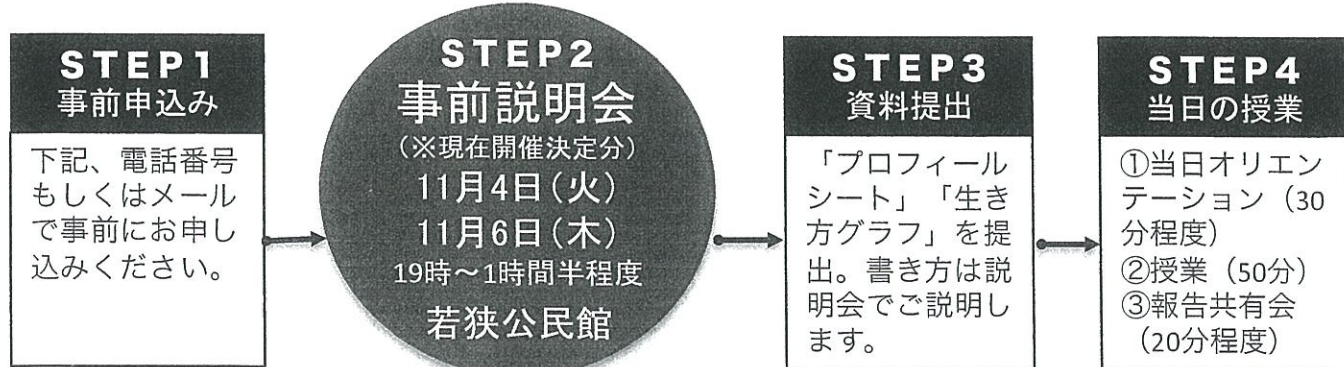
那覇市内中学生1～2年生の生徒に向けお話をさせていただけるおしごと先生を募集しています。

仕事のやり甲斐や喜び、働くことの苦勞や失敗談、その仕事に就くまでの道のりなどを近い距離で語っていただき、沖縄の子どもの未来づくりのお手伝いに参画していただける方の応募をお待ちしています。

●初めての方でも大丈夫！—説明会を開催します●
生き方せんせいってどんなことを話せばいいの？
私にできるのかしら・・・？そんなご質問にお応えするために事前説明を開催しています。「地域のこどもは地域で育てる」を実現させるためにご協力いただける方々、ぜひご参加ください。各地域での説明会は決定次第、ホームページやフェイスブックで随時お知らせいたします。お気軽にご参加ください！
HP: 沖縄キャリア教育情報サイト FB: 沖縄のキャリア教育



■生きかた先生の登録から当日の各中学校での授業までの流れ



【今年度 実施予定中学校】5・6校時のいずれか

10/31(金)古蔵中学校 1/16(金)上山中学校
11/10(月)那覇中学校 1/26(月)寄宮中学校
11/28(金)小祿中学校 2/06(金)鏡原中学校
12/15(月)松城中学校 2/24(火)首里中学校

お問い合わせ・お申し込み

(有) オーシャン・トゥエンティワン
098-859-8742
yumekanae@ocean-21.co.jp

「中学生のための仕事と社会について考える講座事業」
おしごと先生の募集について

那覇市内の中学校で、中学1～2年生向けに「仕事とは？生き甲斐とは？中学時代を振り返って」などの、大人のみなさんの「経験や体験」をお話くださる方々を「おしごと先生」として募集しています。みなさんの経験や体験談が、子ども達の気づきや発見になるかもしれません。

社会にいずれ出て行く子ども達に、学校では教えてくれないお仕事や生き方について、お話していただけませんか？

下記の通り、説明会も実施いたします。多くの大人のみなさんのご協力をお待ちしています。

記

【おしごと先生実施日】

実施校：那覇市立上山中学校

日 時：平成27年1月16日（金）午後2時30分～3時40分（6校時）

※ 集合は午後2時に体育館になります

内 容：お仕事の内容や中学生時代にやっておくべきこと等

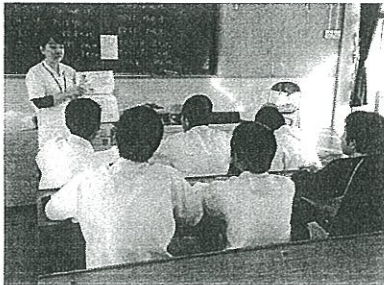
対 象：中学1年生 151名（そのうち10名グループに対し20分×2回の講座）

【事前説明会】

日 時：平成27年1月13日（火）午後7時半～8時半（約1時間）

場 所：若狭公民館 2階 実習室

<<那覇中学校の「おしごと先生」実施の様子>>



学習が遅れがちな中学生を対象とした学習支援 ～地域住民の協力を得て、地域未来塾を新たに開講～

地域未来塾について

中学生を対象に、大学生や教員OBなど地域住民の協力による学習支援を実施

- ◆ 経済的な理由や家庭の事情により、家庭での学習が困難であったり、学習習慣が十分に身につけていない中学生への学習支援を実施
- ◆ 地域住民が参画する学校支援地域本部の活用により、**原則無料(*)の学習支援**
(* 参加者が一部実費等を負担する場合あり)
- ◆ 教員を志望する大学生などの地域住民、学習塾などの民間教育事業者、NPO等の協力により、多様な視点からの支援が可能(27年度要求・要望額:266百万円(※学校・家庭・地域の連携協力推進事業の27年度要求・要望額569百万円の内数))

* 学習が遅れがちな中学生に対して学習習慣の確立と基礎学力の定着

* 高等学校等進学率の改善や学力向上



学習機会の提供によって、貧困の負の連鎖を断ち切る



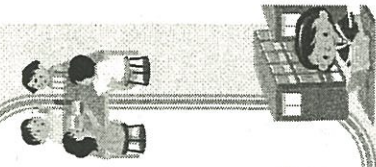
全生徒を対象とした学習支援の事例

【東京都内のある中学校の取組】

※学校支援地域本部を活用

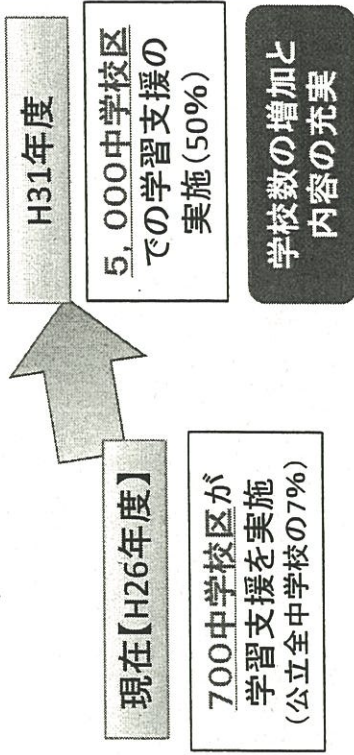
<放課後学習支援>

- ・ 対象は中1～3の希望者
- ・ 年間約80回(学期中の週2回(2時間程度))
 - * 空き教室を利用、無料
- ・ 指導員による個別指導と自習
 - * 指導員：教員志望の講師や大学生など



平成31年度末までの目標数

※学校支援地域本部を活用した学校数



※学校支援地域本部：地域人材の参画により、学校の教育活動(授業、部活動等)を支援する取組(H25 公立中学校 約2,700校(全体の28%)で実施、補助率1/3)

「放課後子ども総合プラン」の全体像

趣旨・目的

- 共働き家庭等の「小1の壁」を打破するとともに、次代を担う人材を育成するため、全ての就学児童が放課後等を安全・安心に過ごし、多様な体験・活動を行うことができるよう、一体型を中心とした放課後児童クラブ及び放課後子供教室の計画的な整備等を進める

国全体の目標

- 平成31年度末までに
 - 放課後児童クラブについて、約30万人分を新たに整備
 - ・ (約90万人⇒約120万人)
 - ・ 新規開設分の約80%を小学校内で実施
 - 全小学校区 (約2万か所) で一体的に又は連携して実施し、うち1万か所以上を一体型で実施
 - ・ (約600か所⇒1万か所以上) を目指す
 - ※ 小学校外の既存の放課後児童クラブについても、二一ズに応じ、余裕教室等を活用
 - ※ 放課後子供教室の充実 (約1万か所⇒約2万か所)

市町村及び都道府県の取組

- 国は「放課後子ども総合プラン」に基づき取組等について次世代育成支援対策推進法に定める行動計画策定指針に記載
- 市町村及び都道府県は、行動計画策定指針に即し、市町村行動計画及び都道府県行動計画に、
 - ・ 平成31年度に達成されるべき一体型の目標事業量
 - ・ 小学校の余裕教室の活用に関する具体的な方策
- などを記載し、計画的に整備
 - ※ 行動計画は、子ども・子育て支援事業計画と一体のものとして策定も可

市町村及び都道府県の体制等

- 市町村には「運営委員会」、都道府県には「推進委員会」を設置し、教育委員会と福祉部局の連携を強化
- 「総合教育会議」を活用し、首長と教育委員会が、学校施設の積極的な活用など、総合的な放課後対策の在り方について十分協議

学校施設を徹底活用した実施促進

- 学校施設の活用に当たっての責任体制の明確化
 - ・ 実施主体である市町村教育委員会又は福祉部局等に管理運営の責任の所在を明確化
 - ・ 事故が起きた場合の対応等について協定を締結するなどの工夫が必要
- 余裕教室の徹底活用等に向けた検討
 - ・ 既に活用されている余裕教室を含め、運営委員会等において活用の可否を十分協議
- 放課後等における学校施設の一時的な利用の促進
 - ・ 学校の特別教室などを学校教育の目的には使用していない放課後の時間帯に活用するなど、一時的な利用を積極的に促進

一体型の放課後児童クラブ及び放課後子供教室の実施

- 一体型の放課後児童クラブ及び放課後子供教室の考え方
 - ・ 全ての児童の安全・安心な居場所を確保するため、同一の小中学校等で両事業を実施し、共働き家庭等の児童を含めた全ての児童が放課後子供教室の活動プログラムに参加できるもの
- 全ての児童と一緒に学習や体験活動を行うことができる共通プログラムの充実
- 活動プログラムの企画段階から両事業の従事者・参画者が連携して取り組むことが重要
- 実施に当たっては、特別な支援を必要とする児童や特に配慮を必要とする児童にも十分留意
- 放課後児童クラブについては、生活の場としての機能を十分に担保することが重要であるため、市町村が条例で定める基準を満たすことが必要



放課後児童クラブ及び放課後子供教室の連携による実施

- 放課後児童クラブ及び放課後子供教室が小学校外で実施する場合も両事業を連携
 - ・ 学校施設を活用してもなお地域に利用ニーズがある場合には、希望する幼稚園などの社会資源の活用も検討
 - ・ 現に公民館、児童館等で実施している場合は、引き続き当該施設での実施は可能



※ 国は「放課後子ども総合プラン」に基づく市町村等の取組に対し、必要な財政的支援策を毎年度予算編成過程において検討



地域の豊かな社会資源を活用した土曜日の教育支援体制等構築事業

平成27年度要求・要望額 2,126百万円 (新規改組)

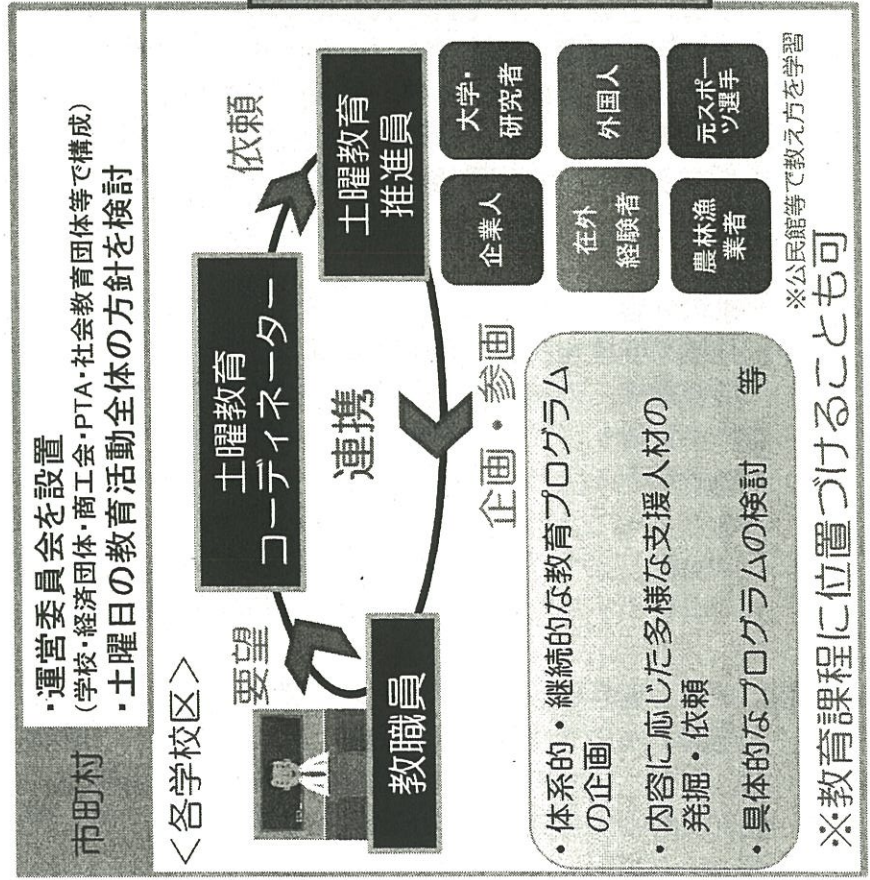
全ての子供たちの土曜日の教育活動を充実するため、地域の多様な経験や技能を持つ人材・企業等の協力を得て、土曜日に体系的・継続的な教育プログラムを企画・実施する学校・市町村等の取組を支援することにより、教育支援に取り組む体制を構築し、地域の活性化を図る(4,850か所 → 12,000か所)。

【補助率】

国	1/3
都道府県	1/3
市町村	1/3

◆地域の多様な経験や技能を持つ人材をコーディネートし、土曜日ならではの生きたプログラムを実現！

◆土曜日の教育支援体制の仕組み◆



社会を生き抜く力を培う 土曜日ならではのプログラムの実践

～実践例～

- ★算数・数学 エンジニアによる使える算数・数学講座
- ★理科: 研究者による科学実験教室
- ★外国語: 在外経験者による英会話
- ★総合学習 企業等との協働によるキャリア教育・商品開発等
- ★文化・芸術 文化・芸術活動団体による茶道の作法など伝統文化の良さを理解してもらうための講座

＜教員とのTTTによる数学＞

＜市民講師による英会話＞

すべての子供たちの土曜日の教育支援体制等の構築

2 「学びによる地域力活性化プログラム 普及・啓発事業」 ～地域力活性化コンファレンスの開催～

(新 規)

27年度要求額

80百万円

1. 要求の要旨

第2期教育振興基本計画において教育の再生に向けた基本的方向性のひとつである「絆づくりと活力あるコミュニティの形成」の実現に向け、「絆づくりと活力あるコミュニティの形成に向けた学習環境・協働体制の整備推進」が具体的な方策として示されたことに基づき、本事業では公民館等の地域の「学びの場」を拠点にして、地域力の向上、活力ある地域コミュニティ形成のために実施される地域課題解決の取組の促進、支援を行う。

具体的には、各地方公共団体の部局横断による取組、様々な主体との連携・協働による取組等が一層促進され各地域の課題解決、地域力活性化が図られるよう、これまで取り組んできた「公民館等を中心とした社会教育活性化支援プログラム」（以下「支援プログラム」という。）で得られた地域課題解決の優れた取組の成果を基に、各地域が共有する課題・問題の解決に向けて協議を行う「地域力活性化コンファレンス」を全国各ブロックにおいて開催する等の普及・啓発のための取組を行う。

また、支援プログラムで蓄積された様々な課題解決のノウハウ等をより容易に活用できるものとするため、取組の地域ごとの類型化や成果の検証等を実施する。

2. 要求の内容

(1) 地域力活性化支援委員会の設置

社会教育、地域づくりに関する有識者等によって構成する「地域力活性化支援委員会」を設置し、支援プログラムの実施により得られたノウハウ等をより全国各地域で有効活用するための検証・評価等を行い、その成果をコンファレンスにおいて周知を図るとともに、コンファレンス開催に当たり、全体的な方針、企画、実施内容等に関する検討、アドバイザーとしての参加、成果を踏まえた課題解決の実践的取組テキスト（コンファレンス・テキスト）の作成等を行う。

(2) 地域力活性化コンファレンスの開催

全国7つのブロック（北海道、東北、関東・甲信越、東海・北陸、近畿、中国・四国、九州）において、地方自治体、NPO、民間企業等の関係者が集まり、地域力活性化に向けて必要となる関係者間の効果的マッチング、ネットワークの構築を図りつ

つ、支援プログラムの取組事例やその他地方自治体等が実施する先進的な課題解決の取組のノウハウやプロセスの検証・共有、各関係者が持ち寄ったテーマなどに関する研究協議を行うとともに、コンファレンスの内容や成果をとりまとめ、全国の地方自治体、NPO、研究者、社会教育主事講習実施大学等の関係機関に提供し、学びによる地域力の活性化に向けた普及・啓発を行う。

(3) 支援プログラム成果の類型化・普及のための事業検証の実施

これまで支援プログラムにより得られたノウハウやプロセスについて、都市規模やテーマ別の取組に応じたプログラムの類型化、汎用性の確認などの成果検証を実施する。また、各ブロック・コンファレンスにおいても成果検証の内容を取り上げ、普及・啓発を図る。

【プログラム類型化の例】

都市規模：人口集中都市型、中規模都市型、中山間地等過疎・高齢化地区型 等

取組類型：支援プログラムで設定した5テーマ（①若者の自立・社会参画支援プログラム、②地域の防災拠点形成支援プログラム、③地域人材による家庭支援プログラム、④地域振興支援プログラム、⑤その他地域の教育的資源を活用した地域課題解決支援プログラム）の中の取組類型

「学びによる地域力活性化プログラム普及・啓発事業」 ～地域力活性化コンファレンスの創設～

(新規)

27年度要求額 80百万円

第2期教育振興基本計画で示された教育再生に向けた基本的方向性である「絆づくりと活力あるコミュニティの形成」の実現に向け、地域力の活性化のために公民館等地域の「学びの場」を拠点として実施される地域課題解決の取組の促進、支援を行う。具体的には、これまでに「公民館等支援プログラム」(※)などにおいて蓄積された様々な課題解決のノウハウ、プロセス等の成果を活用し、各地域が共有する課題・問題の解決に向けて協議を行う「地域力活性化コンファレンス」の開催等により、地域力活性化の取組の全国的な普及・啓発を行う。また、蓄積された様々な課題解決のノウハウ等により容易に活用できるものとするため、地域ごとの取組類型化や成果の検証等を実施する。

(※公民館等支援プログラム＝平成25・26年度実施「公民館等を中心とした社会教育活性化支援プログラム」)

I. 地域力活性化支援委員会の設置

- ・各ブロックでの地域力活性化コンファレンス開催にあたり、実施内容、詳細な企画の検討。
- ・コンファレンスへのアドバイザーとしての参加。
- ・「公民館等支援プログラム」の成果であるノウハウ・プロセスを検証・評価し、有効活用に向けた類型化等を実施。

コンファレンス企画審査、プログラム検証等経費
:13百万円

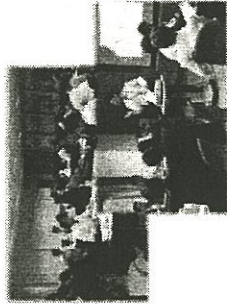
II. 地域力活性化コンファレンスの開催

- ・全国7ブロックにおいて、都道府県、市町村、NPO、民間企業等の社会教育関係者が集まり、地域力活性化に向けた関係者間の効果的マッチングやネットワークを構築しつつ、課題の共有、解決のための協議を実施。
- ・「公民館等支援プログラム」を実施した自治体や自主事業として先進的な地域課題解決の取組を実施する自治体やNPO等がテーマを持ち寄り、事例の検証・共有、研究協議を実施。
- ・協議内容、成果を広く全国へ提供し、地域力の活性化を図る。

全国7ブロック×3百万円、その他経費:23百万円

コンファレンス (Conference)

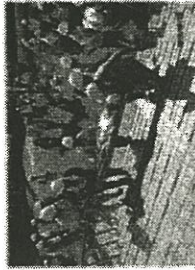
会議、協議会の意。
関係者間で共有する問題について協議すること。



(公民館等支援プログラム取組事例)



若者の居場所づくり「喫茶わいがや」(東京都国立市)
「特産品のびわいによる地域振興」(びわ種石けん等の開発)(高知県南国市)



地域づくり組織が運営する公民館
での一斉防災訓練(三重県名張市)(ナマズ養殖等)(広島県石高町)

III. 地域課題解決の取組の類型化・普及

- ・「公民館等支援プログラム」により得られたノウハウ、プロセスを全国で有効活用するための類型化等を図るための検証を実施。
- ・都市型、過疎地域型等の『地域類型』及びテーマごとに設定した『取組類型』に応じ、類型化及び汎用性を持たせることにより普及を図る。

- ・検証した内容はコンファレンスにおいて、普及・啓発を図る。

類型に応じた40箇所×1.1百万円:44百万円

ブロック・コンファレンスの開催内容

- ・「公民館等支援プログラム」では、地域のリアルな課題の実践的解決ノウハウ、取組プロセスをこれまで多数蓄積。
- ・各地域が抱える個別課題解決のため、実際に地域でプログラムを実証した関係者らとともに、研究協議を実施。



平成26年度 第8回教育協働研究会 案内



～教育振興基本計画について！いかに学社融合を取り入れるか？！～



寒い日々が続く中、新たな年が始まりましたが、皆さんいかがお過ごしでしょうか。

第6回の研究会では、主に学校の教員の方々をお招きして、今の学校の現状や、どういったことに力を入れるのが個人として望ましいのか等話を頂き、参加者の皆さんで考えていくことが出来ました。

今回の研究会は、宜野湾市と合同して、「教育振興基本計画について！いかに学社融合を取り入れるか？！」というテーマのもと、行わせて頂きます。学生発表も含め、2市の教育長さん達をお呼びし、円形フォーラムを通して、「教育振興基本計画」とはどのような計画なのか、どういった内容が今求められているのか等を、参加者の皆さんと一緒に、学ぶことが出来たらいいなど考えています。
(PL:城間俊汰)

日時：2015年1月23日（金）17:30～19:30

所：宜野湾市立中央公民館（市民会館2F）

主催：宜野湾市教育委員会／琉球大学教育学部地域教育経営（井上講四）研究室

加費：無料

プログラム：

1部 学生発表 ～教育振興基本計画の概要と重要ポイント～

【発表者】上間葉月（井上研究室ゼミ生 3年次）

城間俊汰（井上研究室ゼミ生 3年次）

吉田将寿（井上研究室メイト生 3年次）

「学社融合と学びの共同体づくり」受講学生

2部 円形フォーラム ～宜野湾市の教育振興基本計画に期待するもの～

【登壇者】玉城勝秀（宜野湾市教育委員会 教育長）

池原寛安（浦添市教育委員会 教育長）

嘉手苺明子（策定委員・地域コーディネーター）

上間葉月（井上研究室ゼミ生 3年次）

【コーディネーター】藤波深（沖縄国際大学 准教授）

【総合プロデューサー】井上講四（琉球大学 教育学部教授）

テーマの趣旨：今回は、宜野湾市の「教育振興基本計画」策定という時宜を捉えて、宜野湾市、浦添市の教育長さん達を交えて、「教育振興基本計画」とはどのような計画なのか、必要とされる中身とは何なのかといったことを、学生や参加者の皆さんと考え、意見等の交流を踏まえて、今後目指していくべき姿、学社融合への確かな道筋のようなものを見い出していくことが出来たらと考えています。

○次回（第9回研究会）の案内

○懇親会（交流会）

※会終了後、懇親会（交流会）を居酒屋「天居家（あまいか）」にて20:00から行います。是非ご参加下さい。経費は別徴収です。

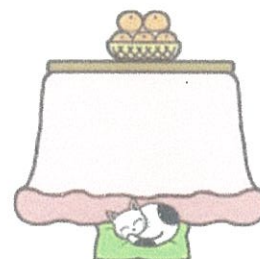
○お申し込み・お問い合わせ

琉球大学教育学部 地域教育経営(井上講四)研究室

〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原1番地

Tel/Fax:098-895-8430(井上研究室)

E-Mail: inoken@w3.u-ryukyu.ac.jp



第8回 教育協働研究会 申し込み用紙 2015年1月23日（金）※1月22日（木）までにお申し込み下さい。

お名前			
連絡先	所属		
Tel :	Fax :	Mail :	



平成26年度 第7回教育協働研究会



～家庭で、地域で支える港川っ子の学力向上～



ここ最近、肌寒く感じる日が増えてきましたが、みなさん体調の方は大丈夫ですか？2014年も終わりに近づき、新年の訪れに心躍らせている方も、いらっしやるでしょう。年が明けて行、2015年、最初の研究会は、いつもとは、一味違った特別企画となっています。講師として、去年も浦添市でキャリア教育についての講義をしていただいた長田徹さんをお招きし、港川小学校協力の下、学校・家庭・地域が連携を進め、地域社会全体で、子ども達の豊かな学びと育ちを支えるためには、何が必要なのかを、学力向上やキャリア教育等の視点も含めた講話を通し、参加者全員で意見交換等も行いながら、会場全体で理解を深めていきたいと思ひます。

(PL: 吉田将寿)

日時: 2015年1月18日(日) 11:15~16:00

場所: 浦添市立港川小学校体育館

主催: 浦添市立港川小学校

備: 沖縄県のこどもの学びと育ちを支えるプロジェクト/申請型プロジェクト/教育協働研究会

加費: 無料

プログラム

1部 11:15~12:30 保護者・地域関係者向け講演

「地域絵がかりでのひとづくり」

休憩(昼食) 12:30~14:00

2部 14:00~16:00 教育関係者向け講演&フリートーキング

「生きる力を育む ～学びと社会をつないで～」

講師: 長田 徹 氏

文部科学省 小等中等教育局 教育課程課 教科調査官

文部科学省 小等中等教育局 児童生徒課 生徒指導調査官

国立教育政策研究所 生徒指導・進路指導研究センター 総括研究官

国立教育政策研究所 教育課程研究センター 教育課程調査官



テーマの趣旨

沖縄県教育委員会から琉球大学教育学部へ委託された、「学力向上先進地域育成事業」の浦添市での活動の一環として、港川小学校では、これまでも保護者や地域が、積極的に学校運営に協力し、多様な教育活動を展開してきましたが、それをさらに発展させ、学校・家庭・地域の連携をさらに進め、地域全体で港川っ子の豊かな学びと育ちを支える協力体制を構築するために、何が出来るのか、学力向上やキャリア教育等の視点も含めた講話を通して会場全体で理解を深めていきたいと思ひます。

お申し込み・お問い合わせ

琉球大学教育学部 地域教育経営(井上講四)研究室

〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原1番地

Tel/Fax: 098-895-8430 (井上研究室)

E-Mail: inoken@w3.u-ryukyu.ac.jp

URL: <http://w3.u-ryukyu.ac.jp/inoken/>



第7回 教育協働研究会 申し込み用紙 2015年1月18日(日) ※ 1月16日(金) までにお申し込み下さい。

お名前			所属	
連絡先				
	Tel :	Fax :	Mail :	

第6回教育協働研究会 報告



去年の12月26日(金)に、第6回教育協働研究会が行われました。今まで行われてきた研究会において、「学校側から見た学社融合」をテーマとして取り上げたことはありませんでしたが、個々の教師レベルに焦点をあてたことはなかったので、今回は「学社融合！個々の教師はどう進めているのか？！現場の声から今後の動向を探る」をテーマとし、会を進めていきました。その内容を、簡単ではありますが、1部、2部に分けて報告したいと思います。

1部は、学生発表ということで、「社会教育概論

II」の受講生による、「社会教育施設について」の発表からスタートしました。社会教育施設それぞれの概要や、歴史、学社融合の実践例、今後の展望等を、緊張しながらも一生懸命発表してくれました。フロアでは、うなずきながら発表を聞く姿や、真剣な表情でペンを走らす姿がみられました。続いて、ゼミ生による「教育振興基本計画」についての発表に移りました。概要にはじまり、第2期の内容、沖縄県の実態や、各市町村の現状について発表を行いました。少し緊張していたため、早口になってしまう場面もあったのですが、教育振興基本計画について、しっかり伝えられたのではないかと思います。その後、1部最後の学生発表が、「学社融合と学びの共同体づくり」の受講生から行われました。「宜野湾市の教育振興基本計画策定状況について」と題し、講義の中で行われた、浦添市・宜野湾市の教育長との対談から考えたこと、宜野湾市教育振興基本計画策定グループ(WG)のインタビューを通して得た、宜野湾市の状況報告や策定者の思いなどを、わかりやすくまとめて、発表してくれました。学生発表後の質疑・応答では、「市町村で教育振興基本計画を作る場合はどこが音頭をとるのか?」、「どの部署が担当するのか?」など、同じ行政関係者だからこそ気になる専門的な質問に、学生が返答に困ってしまう場面もありましたが、そこは井上先生のフォローが入るなど、専門的な意見が飛び交う質疑応答となりました。

2部は、現職の小学校の先生方と行政職の方を登壇者として招き、「個々の教師が唱える、学校にとっての学社融合とは!？」と題し、会を進めました。まず、1部を終えての感想を自己紹介も兼ねつつ、述べてもらいました。その中で「こんなにも社会教育施設があるということを知った。これは学校が閉鎖的であるのと関係があるのではないか」といった感想や、「凄く良く調べられていると思いました。学校側は社会教育施設をもっと使っていかなければならないが、知らない人が多いというのは事実である。なので今回は知ることができて良かった。学校は、そういった施設をトータルで使っていくことが、大事なのではないか」といった感想があった一方で、「まだまだ、表面を触ったような発表だった。具体的な内容を入れこむなどして、もっと深いところまで触ることができたら、もっと良かった。」という辛口な評価もありました。その後、参加者から登壇者に対しての質疑応答の時間移り、その中で「学校の閉鎖的をどのように考えているか」という学生からの質問に対し、「閉鎖的」という言葉をどう捉えるか。社会状況によって閉鎖的の意味が違ってくるのでは?今の時代、情報漏えい問題、モンスターペアレントなど、閉ざさざるを得ない状況になっている。しかし、これは先生方の意識のもちょうで変えることができる!」といった回答や、「実は、学校側は閉鎖的ではない。学校外のところとタッグを組んで何かを行うとなると、手続きなどがあって時間がかかるだけである。なので、学校にアプローチする場合は3ヶ月以上前にアプローチすることが大事だと言われている。行政は学校が閉鎖的と思わず、期間や、頼む人などアプローチ方法を考えることで、“閉鎖的”という問題は解決できるのではないかと思います」といった回答がなされました。また、院生からは「総合の授業に力をいれているようだが、実際に子ども達はどう受け止めているのか」といった質問には「子ども達は生の声、本物に会うことを凄く楽しみにしている。そういったことは、子ども達の感想だったり、授業を受けている様子からも見て取れる!」といった回答がなされました。他にもコーディネーターの方からの「実際にコーディネーターを活用したことはあるのか?」といった先生方への質問には「まだ利用したことはない。4月に利用紹介の紙は配られたが、それだけではわからない。実際にコーディネーターの方と会う機会があれば良いと思う。」という回答があった。



今回の研究会は、世間一般の仕事収めと日程が、かぶってしまったため、大人の参加者は少なかったものの、大人の方や学生・院生から質問が飛び交う場面がみられ、活気にみちた研究会だったのではないかと感じます。また、実際に現場で働く先生方の話を聞くことで、「私達が考える学校」と「実際の学校」をすり合わせることでいいのではないのでしょうか。1月の研究会は、浦添市や宜野湾市とコラボした形で2回行われます!2015年もイノ研は皆さんと一緒に実りある研究会を創りあげていけるよう、頑張っていきたいと思えます。

(文責: 上間葉月)

教育を 変えずして 日本に明るい 未来はない!

国は今、抜本的な教育改革を進めようとしています。それではなぜ、改革が必要なのでしょう。日本はどのような方向をめざしているのでしょうか。教育の現状と方向性について、中央教育審議会委員の生重幸恵氏にうかがいました。

NPO法人スクール・アドバイス・ネットワーク理事長

生重幸恵氏

アジアの中で没落する危機をどうやって乗り越えるのか?

今、文部科学省の中央教育審議会では、初等中等教育や大学入試制度の改革について議論されています。それではなぜ、今、教育改革が必要なのでしょう。

まず、人口構造の変化の問題が挙げられます。日本は少子化に伴う人口減少に歯止めがかかりそうにありません。生産年齢人口（15歳以上64歳未満）も減り続け、2060年には2010年に比べて半減する見込みです。その中で生産性を上げていき、国民一人ひとりが幸せを感じられるような社会をつくっていかねければならないのです。

目を国外に転じて、アジアの中で日本は政治も含めて難しい時代に入っています。日本は高い技術を持ち、それは世界的にも評価されています。また平和と安定への貢献や環境保全、途上国援助など、さまざまな分野で国際的に活動しています。しかし、人口が減少し、経済が低迷すれば、相対的な地位の低下は免れません。

アジアの下層に位置づけられるような国になってしまうのではなく、

リーダーシップをとって国際貢献できる国として生き残ること。これが、これからの時代を生きる子どもたちにとっても大事なことだと思います。「いいんだよ、日本はギリ貧で」なんて誰も思っていないはず。これは、思想信条の違いを越えて異論のないことでしょうか。

自分たちの努力でなしえてきたことをさらに発展させ、豊かで住みやすい日本にするにはどうしたらいいのか。そのためには、これまで学校教育で行われてきた机上の学び中心のスタイルでは通用しなくなると考えられています。

このことは、すでに認識されています。教育改革とは、21世紀の日本が新たに船出をするということなのです。

教育の格差をなくすため 全体の底上げが急務

それでは、今の日本の教育はどうでしょうか。子どもたちは不安や焦りを抱えているように見えます。先が見えず、目標が持てないのではないのでしょうか?

教育に関して、格差が広がりつつあります。わが子の塾通いと情報収集に熱心な保護者もいれば、教育

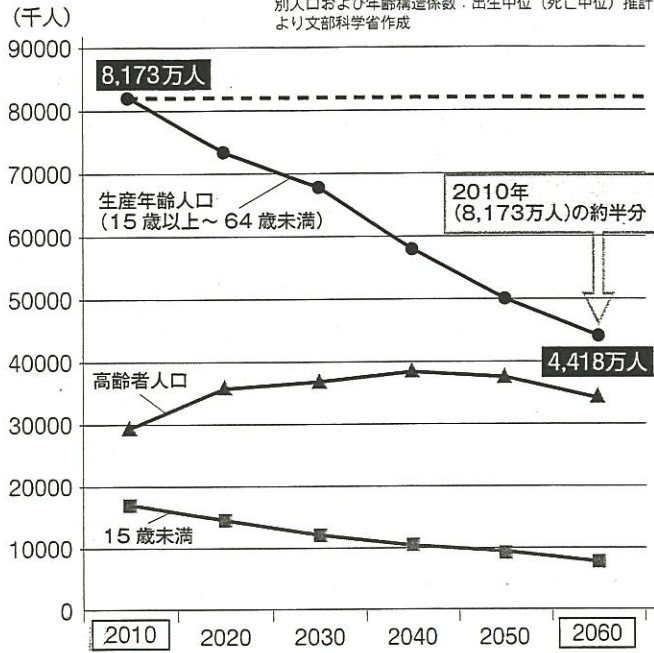
生重幸恵 (いくしげ ゆきえ)

3人の子育て中に小中学校のPTA会長を経験。2002年に東京都杉並区より「学校教育コーディネーター」第1号に任命されたのを機に、NPO法人スクール・アドバイス・ネットワークを設立。学校と地域、企業をつなぐ活動に奔走している。2013年からは文部科学省第7期中央教育審議会委員を務める。

※ 1) 総合的な学習の時間……「生きる力」をつけるため、教科の枠を超えた横断的・総合的な学びに取り組む時間。いわゆるゆとり教育の目玉として、小・中・高で2000年から段階的にスタートした。

●生産年齢人口の推移

(国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成24年1月推計)より)
総人口、年齢3区分(0~14歳、15~64歳、65歳以上)別人口および年齢構成係数:出生中位(死亡中位)推計より文部科学省作成



少子化に伴って、2010年には8,000万人以上いた生産年齢人口が2060年には約4,400万人にまで激減する見込みです。ただし、「人口減少によって国内市場が縮小する」という見方がある一方で、「人口が減ると1人当たりのGDPが高くなって豊かになる」などとする指摘もあります。

徒たちは難関大学をめざして勉強してしまいましたが、成績上位校の生徒は普通科高校を選ぶようになり、誰もが普通科高校をめざすようになると、偏差値を基準として学校が決められてしまいます。その結果、高校教育はあまりにも格差が開いてしまいました。成績上位校の生徒たちは難関大学をめざして勉強し

ています。それ以外の生徒たちは明確な目標を見つけられず、ただ日々を楽しむことだけに捕われてはいないでしょうか？ しかも高校の中退率が高い。学年人口の100%近くが高校に進学する時代なのに、このままでは……。全体の底上げが急務なのです。そのためには、小中学校で学ぶ内容を生徒たちが確実に身につけていけるような態勢づくりが欠かせません。文部科学省は2015年度から子どもの貧困対策を大幅に充実させる方針ですが、それはこうした背景があるからです。

従来型の教育が限界に?!

教育を変えていかなければ、子どもたちの行く末はどうなるのでしょうか？ 教育こそが国の根幹を支えているのです。

なぜ、子どもたちは学ぶのでしょうか？

自分たちが努力して、苦勞して、必死になって取り組んだことが、社会に何らかの形で還元されるという実感。これがあって初めて自分の役割や位置づけが見出せます。生きていくのは幸せなことだと感じられるのです。自分が誰かのためになることがわかり、社会的存在になったとき、初めて生きている価値を見出せるのです。

ところが現状はどうでしょうか？ 「学ぶのが楽しい」「学びが社会とつながっている」こんな実感を得られるような中学・高校生活を送ることができているのでしょうか？

子どもたちは好きなことは自ら探究します。鉄道でも歴史でも、みんなそうです。学ぶとは、本来ワクワクすること、素敵なことなのです。

しかも、学びは生涯続きます。小

●数学・理科の学習に対する意識

(TIMSS2011 質問紙調査結果より)

※生徒質問紙調査(対象:中学校2年生)において、下記項目につき、「強くそう思う」「そう思う」と回答した生徒の割合。	数学		理科	
	日本	国際平均	日本	国際平均
数学・理科の勉強は楽しい	48%	71%	63%	80%
数学・理科を勉強すると日常生活に役立つ	71%	89%	20%	56%
他教科を勉強するために数学・理科が必要	67%	81%	35%	70%
志望大学に入るために良い成績が必要	72%	85%	59%	77%
将来望む仕事につくために良い成績が必要	62%	83%	47%	70%
数学・理科を使うことが含まれる職業に就きたい	18%	52%	20%	56%

「数学の勉強は楽しい」と回答した割合が、国際平均の71%と比べて日本は48%と極端に低い数字になっています。このほかの質問項目でも、日本の中学生は、学習の楽しさや実社会との連関に対して肯定的な回答をする割合が低い。学習意欲の面で課題があるのは明らかです。

高校時代に学びを深めた自分になるからこそ、60歳になっても70歳になってもワクワクできる自分がいるのです。就職してからが学びの本番です。学び方を身につけているから、社会人になっても学べるのです。いろいろなところネットワークを広げていって、お互いに教え合う波及効果を生み出していく。そうしたやり方を身につけさせるのが教育だと思います。

※1 「総合的な学習の時間」が取り入れられ、浸透してきてから、徐々にア

※2) アクティブ・ラーニング……教員による一方向的な講義形式とは異なり、子どもたちが能動的に問題を発見して解を見出していく学び。

クティブ・ラーニングという手法が広がってきました。これが一番うまくいっているのが小学校でしょう。米国ハーバード大学のマイケル・サnder教授の「白熱教室」がテレビで

高大接続の根本的な改革が不可欠

今の教育を変えるにはどうしたらよいのでしょうか？ これまでの大入試は知識量を要求する問題に偏りがちでした。そのため、高校では探求型の授業を取り入れにくかったのです。高校の教育を変えるには、高校と大学の接続、いわゆる高大接続の改革が欠かせないのです。

中央教育審議会では、高校までの教育課程がきちんと定着しているかを見るための「高等学校基礎学力テスト（仮称）」と、大学進学希望者向けの「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」の創設を議論しています。

みんながどんぐりの背比べで国が発展していくわけではありません。地域社会を支える学力と、国を引っ張っていくリーダーシップ。私たちは、大別してこの二つの能力を次世

人気を博したり、「探求型」の授業が注目されたりするようになりました。これは、多くの人たちがこれからの教育がどうあるべきか、気づいているからにはかたやみません。

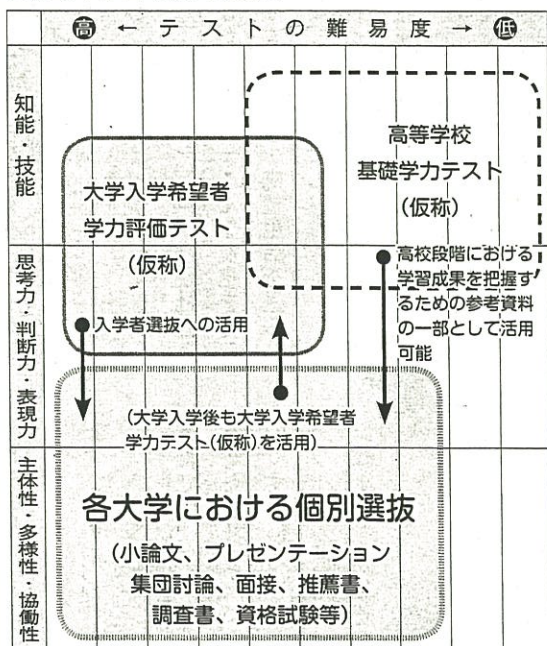
代に期待しなければならぬのです。

明治時代の日本を振り返っても、地域社会の責任ある大人たちを生み出していくと同時に、町や村を挙げて優秀な人材を東京大学に送り出すという仕組みがありました。

「平等って何？」というのをもう一度、問い直すべきなのではないかな？ と考えています。誰もが東京大学やマサチューセッツ工科大学に行つて官僚や研究者をめざすわけはありません。地元には地元の大学の役割があります。テストの1点2点を争わせるのではなくて、根本となる地力をつけさせて、生涯にわたつて学ぶ姿勢を身につけさせなければなりません。

「この遺伝子治療の分野で世界に貢献したい」「地域経済を活性化させたい」など、高校生がそれぞれの目

●新しい大学入学者選抜



大学入学者選抜のための仕組み
 □ 高校教育の質の確保・向上のための仕組み

高校までの教育内容が定着しているかを測る「高等学校基礎学力テスト(仮称)」と、大学進学希望者向けの「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」を創設し、偏差値で決まる大学入試から、学生の意欲や希望に比重を置いた入学者選抜方法に変えていく予定。

(2014年12月22日 文部科学省中央教育審議会 答申資料より)

英語を使って

他教科を学ぶ時代へ

もう一つ、日本が抱える大きな課題が英語教育です。

これまで日本語だけで生きてこられました。しかし、交通網もインターネットも発達した今、人もモノもお金も、かつてとは比較にならないほど国境を越えて行き交う時代です。そうした中で、日本が再度、世界中で存在感を高めていくためにはどうしたらよいのでしょうか？ これからの子どもたちには、国際的な共

通語である英語を自在に使いこなす力が求められるのです。そのためには、今までの英語習得のし方では限界があるでしょう。

新しい英語教育の流れは、ざっと次のようなものでしょう。小学校3〜4年生から異文化理解活動の中で英語に親しむ。小学5〜6年生で「私はこれが好きです」「あなたは何が好きですか？」と、簡単なコミュニケーションがとれる程度の会話を身につける。中学では、日本や地域のことを伝えられ、相手が伝えようとしていることを受け止められる。高校になつたら、もっと掘り下げてディスカッションできる。そうした能力をつけさせる取り組みが新しい教育

●「合教科・科目型」「総合型」について

思考力・判断力・表現力

知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探求し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力

教科・科目の枠を超えた「思考力・判断力・表現力」を評価するためには、個々の教科・科目の範囲にとどまらず、複数の教科・科目を教科横断的・総合的に組み合わせて出題することが必要。

- ※「教科を超える思考力・判断力・表現力」としては、たとえば以下のような力が挙げられる。
- 言語に関する思考力・判断力・表現力
(読解力、要約力、表現力、コミュニケーション力等を含む)
 - 数に関する思考力・判断力・表現力
(統計的思考力、論理的思考力、図やグラフを描いたり読んだりする力等を含む)
 - 科学に関する思考力・判断力・表現力
(モデルをつくって説明する力、計画を立てる力、抽象化する力、大ざっぱに推定する力等を含む)
 - 社会に関する思考力・判断力・表現力
(合理的思考力、歴史や社会の問題を特定し、議論の焦点を定める力、矛盾点をあらわにする力等を含む)
 - 問題発見・解決力
(答えのない問題に答えを見出す力、問題の構造を定義する力、問題解決の道筋を文脈に応じて定める力等を含む)
 - 情報活用能力
(情報を収集する力、情報を整理する力、情報を表現する力、情報を的確に伝達する力等を含む)

合教科・科目型の問題の設計のイメージ (案)

- 1) 評価する思考力・判断力・表現力 (上記※) を明確化。
- 2) 明確化された思考力・判断力・表現力が、どの教科・科目等においてどのような力として主に育成されるか特定。
例えば……言語⇒国語・英語、数⇒数学、科学⇒理科、社会⇒地歴又は公民
問題発見・解決力⇒総合及び各教科・科目、情報活用能力⇒情報
- 3) 特定された教科・科目等において育成される力を、他教科・科目等のどのような文脈に当てはめていくことが効果的かを検証しつつ、教科・科目等の組合せを決定、作問

(2014年12月22日 文部科学省中央教育審議会 答申資料より)

勉強していけるはずですが、
目標を持つのは、ものすごく尊いし、素晴らしいことです。その実現に向けてなら、モチベーションを上げて

これを学びたいか、人によって違うでしょう。人にはそれぞれタイプがあるからです。コツコツと研究を続けるのが好きな人もいれば、地道な作業が苦手な人もいます。外に飛び出している人な人と出会うのが好きな人がいれば、内気な人もいます。例えば、人と話すのが苦手で、一人で黙々とITシステムのプログラムミニングをするのが得意な人がいます。口数は少なくとも、プログラムで自分を表現するというのは、これはこれで雄弁です。

ある人は、補佐的な役割が得意な人もいます。総務や経理といった仕事に向いている人にとって、数字がピタリと収まったときの快感はたまらないのだそうです。
人はそれぞれ違う能力を持っていて、誰かの役に立っているのです。それがやりがいであり、生きがいであり、その対価として報酬を得ることで仕事が出来ています。
運動が得意な子どもが「将来は体を使って活躍できるから消防士になって、人の役に立ちたい」という目標を持つのは、ものすごく尊いし、素晴らしいことです。その実現に向けてなら、モチベーションを上げて勉強していけるはずですが、

何を学びたいかは、人によって違うでしょう。人にはそれぞれタイプがあるからです。コツコツと研究を続けるのが好きな人もいれば、地道な作業が苦手な人もいます。外に飛び出している人な人と出会うのが好きな人がいれば、内気な人もいます。例えば、人と話すのが苦手で、一人で黙々とITシステムのプログラムミニングをするのが得意な人がいます。口数は少なくとも、プログラムで自分を表現するというのは、これはこれで雄弁です。

今後、国民一人ひとりが幸せな人生を歩むためにも、日本が国のありようを自ら考えられる国になっていくためには、教育を変えていく必要があるのです。

しかし、過去の神話は崩れ去りました。国際競争が激化する中で、大手企業といえども新入社員を気長に育てている余裕はありません。
働く側も、自分自身のキャリアアップを図るために転職することが珍しくなくなりました。今、一人ひとりが自立できるかどうかが問われているのです。それこそ、たとえ勤めている会社が倒産しても生き抜いていける力をつけざるを得ないのです。

かつて、日本企業は何も色が付いていない学生を新卒採用して、入社後に応用力や一歩踏み出す力を育てていました。終身雇用の慣行のもと、企業が定年まで面倒を見てくれたのです。
たど不会社倒産しても生き抜いていける力を

人生、どこにチャンスが転がっているかわかりません。それを、家庭でも学校でも、子どもたちに伝えてあげることが大事なのではないでしょうか。

課程には当然入ってくるでしょう。先ほど触れた「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」では「合教科・科目型」「総合型」の出題を検討しています。これは、教科や科目の枠を超えた思考力や判断力、表現力を問うものです。例えば、英語で出題された数学の問題を解くといった内容が想定されています。将来は、こうした「合教科・科目型」「総合型」のみの出題をめざしているのです。すると、高校の授業でも、英語で

出題された数学の問題を解いたり、英語を使って理科の実験をしたりといったことを繰り返さなければ、新しいテストに対応できる学力は身につかないでしょう。
人生は、どこにチャンスが転がっているかわからない!
「私はこの大学のこの学部に入って、これを学びたいんだー」そう言えるものがあれば、学びがとても素敵なものになると私は思います。

第4回

沖縄教育協働研究推進委員会

○会議名	平成 26 年度文部科学省事業「学校と地域の新たな連携体制構築のための実証研究」 第 4 回 沖縄教育協働研究推進委員会
○日時	平成 27 年 2 月 17 日（火）16：00-18：00
○会場	若狭公民館研修室
○出席	井上、川上 原田 生重 外間 前泊 宮城 平良 秋吉 具志 (事務局 翁長 金城)

会議次第

1. 開会のあいさつ

- ・ 沖縄教育協働研究推進委員会 委員代表 井上講四（琉球大学教育学部教授）

2. 事業報告

- ① 【取組 1】 推進委員会（第 3 回）
- ② 【取組 2】 実証研究 [大学生インターンシッププログラムの実施]
- ③ 【取組 3】 実証研究 [特別なニーズのある子どもへの学習支援の実施]
- ④ 【取組 4】 「地域円卓会議」の開催（当日資料にて）
- ⑤ 【その他】 「子育て勉強会」の開催

3. ディスカッション

○これまでの取り組みにおける成果と課題の共有

○取り組みの持続可能性について

「若狭エリアに【学校と地域の連携】を推進する拠点を残すには」

【参考 1】 『学校支援本部わかさプラットフォーム(仮称)』概要案

【参考 2】 「杉並チャリティウォーク」概要一式

【参考 3】 「YS 市庭コミュニティ財団」参考資料

【参考 4】 「沖縄県グッジョブ運動市民提案型助成金」参考資料

事務連絡

1. 【お願い】推進委員会[議事録]の確認について

○推進委員会[議事録]につきましては、事業終了時に文部科学省に提出する報告書に掲載され、公開となる可能性があります。内容についてご確認の上、修正等がございましたら【2 月末日までに】事務局にご連絡ください。

配布資料

- [資料 1] 第 3 回沖縄教育協働研究推進委員会 会議次第
- [資料 2] 事業概要・事業スケジュール(最新版)
- [資料 3] [報告書]【取組 1】推進委員会議事録（第 3 回）
- [資料 4] [報告書]【取組 2】特別なニーズのある子どもへの学習支援
- [資料 5] [報告書]【取組 3】大学生インターンシッププログラムの実施
- [資料 6] [報告書]【取組 4】「地域円卓会議」（概要・当日配布資料）
- [資料 7] [報告書]【取組 5】「子育て勉強会」
- [資料 8] [参考] 「学校支援本部わかさプラットフォーム(仮称)」概要(案)
- [資料 9] [参考] 『杉並チャリティーウォーク』概要一式
- [資料 10] [参考] 『グッジョブ運動市民提案型助成金』概要

議事録

井上 こんにちは。インフルエンザに掛かってしまった。円卓会議には出席できず残念でした。来年も何らかの形でやっていこうと思います。失われた一週間をとり戻して行きたいと思います。

翁長 今日は代理で生涯学習課課長の代理での外間さん。カイカ堂の代理で具志さんが出席しております。

具志 げん材、神森小学校で学習支援をしている。社会福祉士と保健福祉士の免許取得のため大学に通っています。よろしくお願いたします。

翁長 本日は、次年度どのように進めていくかを中心に進めていきたいと思います。よろしくお願いたします。

翁長 資料3の議事録などで追加修正等あれば事務局の方までお知らせ下さい。
宜しくお願いたします。資料4は学習支援の第1回～第7回まで入っています。
資料5はありません。インターンシップのプログラムはメールで後ほど共有します。
資料6は先週末の円卓会議の資料を添付しています。今日は当日に配布された資料のみを添付いたします。また琉球新報記事も添付いたします。
資料7は、当初計画をしていなかったが、子ども達の顔は見えて来たが、
家庭のお母さん達がどのような気持ちで学習支援に子どもを送っているかなどを把握するためセミナーを実施したそのアンケートと様子を記載しています。
学習支援と並列で高校入試に必要な情報、家での声かけなどを伝えました。勉強できない背景にある色々なものを解決するための地域人材など様々な取り組みやサポートをお伝えします。小学校のお母さんが多く、塾いらずの高校入試対策。小学校高学年が多かったです。

川上 前回2回までだったのですが、残り2回となりました。日々、4名～5名に先生がひとりつくという形で学習支援をしている。最初は宿題だけの時間だったが、あえて苦手克服の科目も教えるようにしている。第2回目はカイカ堂の佐渡山さんに講演してもらった。第6回目は翁長さんの講演をもらった。第6回目からインターン生が小学生と5分間向き合うということスピーチをした。また、先週は貿易ゲームをした。

原田 中学生3年生は、約4名いる。継続的にきているのは2名。1、2年生はそれぞれ3名ずつ。

翁長 問題行動のある子たちが3回に一回でも来る子がいればいいかなと思う。
休んでいても、ちょこっと顔を出したりする子どももいる。一応、気にはしているのだと思う。当初の体制づくりの課題として残るかなと思う。その他、質問などありますか？

井上 若狭円卓会議について知りたい。

翁長 資料6をもとに説明する若狭公民館の潤さんより「時代がかわり地域も変わっていかなければいけない」のでは。という論点があった。自治会長さんが会議疲れをしている。会議疲れをしている自治会長さんが多い。その他以外の力が余っているひとたちが楽しくわいわいできる場を他に作ればいいのかと思う。

翁長 中曽根さんの講演では、「コミュニティスクール」「学校支援本部」がとても響いていた。
地域運営学校（コミュニティスクール）の指定校である学校は自己効力感が高い。先生方のストレスも低い。という調査結果が出ている。
「楽しくまちづくりをする。」「楽しく連携する。」というキーワードが残っている。杉並区は突飛なアイデアがいっぱいあるなと感じた。「資料9」は、チャリティーウォーク。
「資料12」は、地域運営学校（コミュニティスクール）の指定校である学校は自己効力感が高

	<p>い。先生方のストレスも低い。という調査結果の詳細が出ている。</p> <p>「資料 8」は、どこにも出していない資料。次年度このように進めていけないかを概要案として出している。イメージづくりで出している資料だ。「学校支援本部わかさプラットフォーム」概要案。人・物・金を地域で集めて集積し発信する。約年間 200 万ほど。</p> <p>コーディネーター人件費などにかかる年間 200 万ほどの基金を活用して広める事業。</p> <p>わかさチャリティーウォークが「資料 9」の参考となる。</p> <p>「資料 10」・YS 財団、グッジョブ助成金など活用できるかもしれない。立ち上げ準備が出来るかもしれない。</p>
翁長	<p>今後、地域の体制をどのように作っていくのか。</p> <p>体制のところ、公民館が大学生と連携しながらやっていくことを実証検証した。</p> <p>他に关われる主体はあるか？など議論していきたい。</p> <p>小学生はずっと 22 名で減らずにそのまま通い続けている。</p> <p>一方で課題は中学生。中学生に対しては学習体制の場は十分ではなかった。</p> <p>いまは割と勉強の体制に入っている。帰日もスムーズになった。</p> <p>学習支援の体制など意見などあれば下さい</p>
井上	<p>次年度このような形になると学生達の体制が気になる。</p>
原田	<p>今回のリクルートは斡旋をお願いした。一二年生を中心に。</p> <p>沖縄大学 沖縄国際大学をお願いしたが集まらなかった。</p>
井上	<p>沖縄大学は浦添と協定を結んでいる。過当競争に入っている。</p> <p>そろそろ調整をする時期に入った。市場経済的に学生たちが地域に入って体験することが難しくなってきた。今のうちの一年次が 2 年次に動くとなると難しくなるかもしれない。</p> <p>毎年、一年次を対象とするようにしなくてはいけないかもしれない。</p> <p>そこをどのように考えていけたらいいのか。</p> <p>那覇市は教育研究所と琉球大学・沖縄大学と協定を結んでいる。</p> <p>学習支援は、とてもニーズが高い。学校としては、コンスタントに来てほしい。</p> <p>沖縄市は求めている。こちら近辺はある意味早いもの勝ち。</p> <p>全県的な課題になっているのかもしれない。</p> <p>重々分かるんだけど、思いだけの体制では今後厳しいかもしれない。</p>
井上	<p>状況的には錯綜していく。学校でも行政でもない民間主導はいいモデルケースとなる。若狭なら若狭は特別な地域としてやっていくことに可能性はある。</p>
翁長	<p>教職希望じゃない学生、もしくは学生じゃなくても ok かと思う。</p> <p>いま世の中に色々なインターンシップがあるので、学習支援もひとつインターンシップの在り方かもしれない。</p>
生重	<p>学生でなくてもいい。全国でみたら高校すら無い所もある。</p> <p>山口など大学もなく、高校も少ない。成績が伸びた。</p> <p>中学校のオープンルームに ALT が英語を教えている。中学生の英語に授業にお年寄りも入り、とても勉強してくる。中学生もその姿勢をみて勉強してくる。</p>
井上	<p>学生と子ども達のマッチングをさせる。そのような関係をつくりあげる。</p> <p>教員志望の学生がいて良いと思う。</p>
生重	<p>最初から授業やっているし、土曜学校もやっているしね。那覇は都会だと感じる。</p> <p>どんな方に作ろうとやはり都市型と地方型がある。いかに巻き込みを起こすか。</p> <p>真面目なことをへんに面白くおかしくやればいい。</p>

	真面目なことを言うだけ言って、面白い事も付け加えて行動する。という人たちに変わっていか なければいけない。
生重	拠点で組織が出来れば、公民館を活用するなど。また、厚労省がやっている学習支援などもある。 要はもっと大学が連携して、学生たちが興味のある場を持つ。
翁長	2つ要因はあると感じる。 ・大学組織 ・学生団体が多い →学生じゃないけど、民間が学生を支援しているなど。
翁長	若狭だけで考えると、高校生の活用もありかなと感じる。
生重	カムバックサーモン作戦で、年間5人~10人くらいの高校生を地域に繋げている。
翁長	若狭出身の方々を中心に入れる。 地域の連携となると、「お迎え」「すこしやんちゃな子たちのサポート」「見守り」をどうするか？ 地域の人となると、連携できたら良いと思う。 自治会に声をかけるとやってくれる人はいるかも。 円卓会議では、いつも夜の地域のパトロールをしている人たちが 子どもたちを送り迎えしながらという方法もあるかもしれない。という声も出た。
平良	現在、パトロールは、あまり機能はしていない。 対象となりそうな達は、パトロールがいつか分かっている。
生重	朝の読書で本の読み聞かせをした地域の頑固な伯父さんがいた。小学校にボランティアに行き毎 日笑顔になった。
翁長	地域コーディネーターさんたちが学生の獲得もしている。 大学生来てくださいとアプローチしている。 授業外の支援が多かったが、勤の良いコーディネーターは企業の方を結んだりする。 名護市などの教育課程支援をしているところもある。
生重	行政に言ってもこの時期に予算化は出来ないので、 なんか話し合ったりする会をもつ。会議体に予算をつけるなどすれば、自主資金を調達しても良 いかと思う。主たる3回の会議などあれば。自立してやっているから色々な資金をうけて 自主運営が出来たりする。継続出来る公民館の継続予算が出来ている。
前泊	那覇市では、4校のモデル校で年80万くらいの予算がついていた。 3校で200万かな。次年度は曙小学校であった。 今若狭がやろうとしていることをまちづくり協議会の予算で出来るのかな？
宮城	主体は別にあって、そこと連携できる場所があればなと思っている。 放課後子ども総合プランなども含め、福祉の部分と連携をして地域で取り組みをすることが出来 ればと思う。那覇市の事業としては、小学校のコミュニティ事業がある。 若狭では、自治会連合会みたいな。学校区という区切りで行っている。 自治会のない地域は抜け落ちて、自治会に入っていない人はコミュニティに入れない。 那覇市の自治会加入率は20%ほどだ。
平良	銘川の今の体制であれば、予算を取れる仕組みになっている。 紙ヒコキ実行委員会などの取り組みをしている。 まちづくり協議会が主体ではなく、一生懸命やっている地域だ。
翁長	小学校の教育支援が新都心は公民館がないので、プラットフォームになるかもしれない。

生重	<p>駐車場に変えて、一部は参加代として、地域の公民館に地域の商店が協賛企業になっている。</p> <p>他の団体もこのようなイベントで組織のお金を稼いでいる。</p> <p>公の場で出来るは素晴らしい。子ども達の販売体験がある。</p> <p>子ども達を巻き込みながら出来るかもしれない。</p>
宮城	<p>ミニミュンヘンをヒントにした。若狭チップルみたいな。</p> <p>子ども地域通貨などは過去に実施したことがある。</p>
平良	<p>人を巻き込むということで、週3でお父さん「ボランティアをしたい」と言い出した。</p> <p>中学3年生でボランティアをしたら内申にはいる。防災などに関しても、中学2年生に使えるなと感じた。先生方で進めている物をうまく流れに巻き込みながら連携しながら、各世帯に流しながら進めればより多くの地域の大人も参加できる。</p>
宮城	<p>ちょぼらを仕組み化するの難しい。イベントなどはボランティアを集めやすい。</p>
翁長	<p>学校支援地域本部をつくる上で、潤さんを中心にどの団体と連携をしていけば良いのか今後考えて行く。一応、いまは民間助成金のみ。公共事業は4月以降になるため。</p> <p>一年～二年かかりなど掛けてやっていくことが出来るかもしれない。</p>
宮城	<p>昔の写真をアーカイブする。昔の記憶を呼び起こすみたいな。</p> <p>今の景色と昔の写真を見ながら街を歩くみたいな。面白いことができる。</p>
翁長	<p>今年度の事業は本当にお疲れ様でした。</p> <p>若狭のひとつのモデルが今後の沖縄の全体の希望だと思う。</p> <p>大きな夢を描いて行けたらいいなと思う。</p>
宮城	<p>閉会の言葉として、次年度もあるかもしれない。</p> <p>次年度も何かしら続けましょうと確認出来たので良かった。</p> <p>若狭地域だけではなく、次に繋げる事が出来たらと思う。</p> <p>福祉的な視点があるから。</p> <p>一緒に頑張ろうと思いつつ、学校というのは重要な場所だ。</p> <p>学校から子ども達をだしたい。より地域に出したい。</p> <p>学校拠点で地域に子どもを出して、先生達の負担が軽減されるかと思う。</p> <p>本当におつかれさまでした。</p>

資料 1

平成 26 年度文部科学省事業『学校と地域の新たな連携体制構築のための実証研究事業』

沖縄教育協働研究推進委員会

○会議名	平成 26 年度文部科学省事業「学校と地域の新たな連携体制構築のための実証研究」 第 4 回 沖縄教育協働研究推進委員会
○日時	平成 27 年 2 月 17 日（火）16：00-18：00
○会場	若狭公民館研修室
○出席	※会議終了後、記録いたします。

会議次第

1. 開会のあいさつ

- ・沖縄教育協働研究推進委員会 委員代表 井上講四（琉球大学教育学部教授）

2. 事業報告

- ① 【取組 1】 推進委員会（第 3 回）
- ② 【取組 2】 実証研究 [大学生インターンシッププログラムの実施]
- ③ 【取組 3】 実証研究 [特別なニーズのある子どもへの学習支援の実施]
- ④ 【取組 4】 「地域円卓会議」の開催（当日資料にて）
- ⑤ 【その他】 「子育て勉強会」の開催

3. ディスカッション

○これまでの取り組みにおける成果と課題の共有

○取り組みの持続可能性について

「若狭エリアに【学校と地域の連携】を推進する拠点を残すには」

【参考 1】 『学校支援本部わかさプラットフォーム(仮称)』概要案

【参考 2】 「杉並チャリティウォーク」概要一式

【参考 3】 「YS 市庭コミュニティ財団」参考資料

【参考 4】 「沖縄県グッジョブ運動市民提案型助成金」参考資料

事務連絡

1. 【お願い】 推進委員会[議事録]の確認について

○推進委員会[議事録]につきましては、事業終了時に文部科学省に提出する報告書に掲載され、公開となる可能性があります。内容についてご確認の上、修正等がございましたら【2 月末日までに】事務局にご連絡ください。

配布資料

[資料 1] 第 3 回沖縄教育協働研究推進委員会 会議次第

[資料 2] 事業概要・事業スケジュール(最新版)

[資料 3] [報告書] 【取組 1】 推進委員会議事録（第 3 回）

[資料 4] [報告書] 【取組 2】 特別なニーズのある子どもへの学習支援

[資料 5] [報告書] 【取組 3】 大学生インターンシッププログラムの実施

[資料 6] [報告書] 【取組 4】 「地域円卓会議」（概要・当日配布資料）

[資料 7] [報告書] 【取組 5】 「子育て勉強会」

[資料 8] [参考] 「学校支援本部わかさプラットフォーム(仮称)」概要(案)

[資料 9] [参考] 『杉並チャリティウォーク』概要一式

[資料 10] [参考] 『グッジョブ運動市民提案型助成金』概要

H26年度文部科学省事業「学校と地域の新たな連携体制構築のための実証研究事業」 若狭エリアをモデルとした、 学校地域連携型放課後学習支援体制構築プロジェクト

事業目的
文科省公募要領より抜粋
未来を担う子どもたちを健やかに育むためには、学校、家庭および地域住民等がそれぞれの役割と責任を自覚しつつ、地域全体で子ども達を育む体制づくりを目指す必要がある。今後、全て学校区に学校と地域が連携・協働する体制を構築し、社会全体で子ども達の教育に取り組む体制づくりを目指す。

事業概要
【取組1】『沖縄教育協働研究推進委員会』の設置と、教育協働体制についての検討協議
【取組2】若狭公民館エリアをモデルとした大学生による「放課後学習支援」プロジェクトの実施検証
【取組3】学習支援を学びの場とした「大学生インターンシップカリキュラム」の開発と実施検証
【取組4】多様な主体の教育促進のための「円卓会議型地域フォーラム」の実施と検証

実施主体
沖縄教育協働研究推進委員会
(委託元:文部科学省生涯学習政策局)

2 学習支援実証研究

大学生による、小中学生への放課後学習支援プロジェクト (公民館を拠点にし、学校・地域NPO・大学との連携を図る)

学習支援開催概要
◆場所:若狭公民館
◆日時:12月19日~2月(全10回)
◆対象:小学4年生~中学3年生

1 協働体制づくり

『沖縄教育協働研究推進委員会』の設置と協議 (学校・公民館・地域NPO・大学・PTA等で構成)

実証研究モデルの方向性・評価指標・事業の継続性と汎用性などについて有識者も交え協議

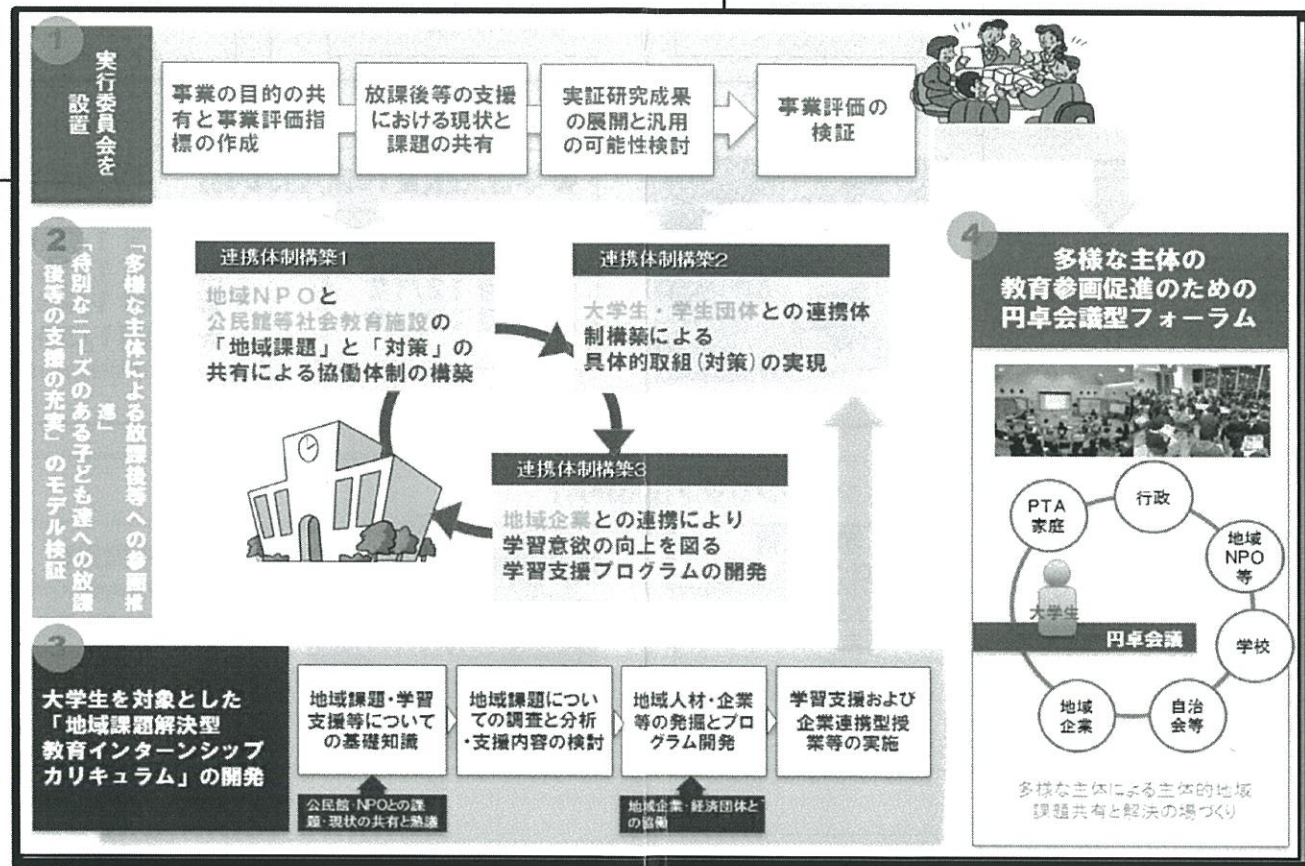
[協議会開催内容]
【第1回】11/18 事業内容の共有・事業方向性の確認
【第2回】12/13 [公開会議]「学校と地域の新たな連携体制の在り方」を学び考える
【第3回】1/15 事業の中間発表・事業評価指標の確認・課題の抽出
【第4回】2/17 連携モデルの汎用性・事業の継続における課題



沖縄教育協働研究推進委員会メンバー

氏名	所属・役職等
井上 講四	琉球大学教育学部 地域教育研究室 教授
生重 幸恵	キャリア教育コーディネーターネットワーク協議会代表
宮城 潤	NPO法人地域サポート若狭 若狭公民館事業部 部長
山里 望	那覇市立那覇中学校 校長
宮城 祥子	那覇市立上山中学校 校長
與儀 茂	那覇市立天妃小学校 校長
奥古田 思信	那覇市立若狭小学校 校長
平良 治	若狭小学校PTA会長
田端 一正	那覇市教育委員会 学校教育部
照屋 満	那覇市教育委員会 生涯学習部 生涯学習課
秋吉 晴子	しんぐるまざーず・ふぉーらむ 沖縄 代表
川畑 彩	NPO法人ELIPO 代表
佐渡山 要	学習環境補助カイカ堂 主宰
前泊 美紀	那覇市議会議員
川上 達輝	琉球大学学生団体IKAROS 代表
翁長 有希	NPO法人沖縄キャリア教育学校支援ネットワーク
神部 愛	NPO法人沖縄キャリア教育学校支援ネットワーク

平成26年12月12日現在



ぼくたちと宿題一緒にしませんか?

大学生が教える勉強会
小学生高学年・中学生対象/無料

「勉強が苦手」「大学生と勉強したい」
「誰かに勉強を教わりたい」
という小学4年生~中学生、
お待ちます!

勉強に行かないけど誰かに勉強を教わりたい
勉強が苦手な小学生、中学生、
小学生高学年・中学生対象/無料

大学生が教える勉強会
小学生高学年・中学生対象/無料

「地域の子は地域全体で育てよう」
地域公民館・大学・地域NPO・学校との連携で
子ども達の育ちを育む取り組みの一環です。

平成26年度文部科学省事業「学校と地域の新たな連携体制構築のための実証研究事業」
協働事業: 沖縄教育協働研究推進委員会、若狭公民館、学生団体IKAROS

3 大学生(主に教職希望学生)のための「地域型学習支援インターンシップ」のカリキュラム開発と実践



教育実習では得られない貴重な体験ができる!
これからの教育に必要なことがリアルに学べる!!!

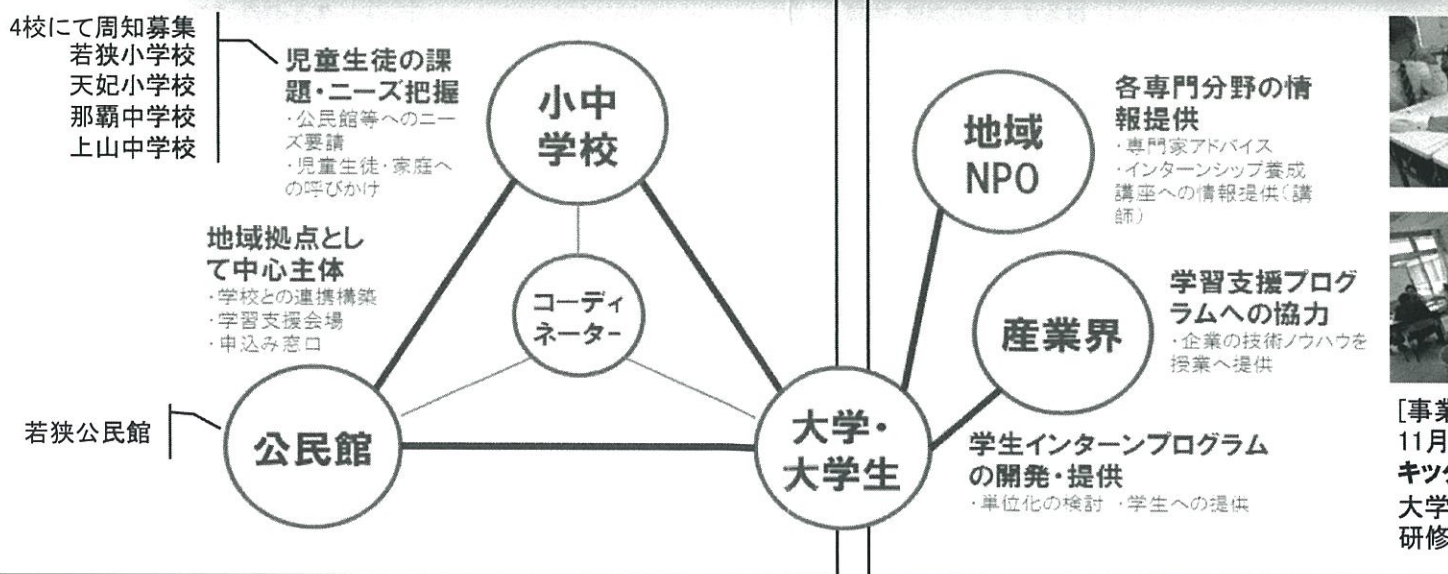
インターン生自らが授業を考える。チームで取り組むから楽しい!
今教育現場で求められる「地域連携型」の授業(キャリア教育)「3つの学び」
少人数制だから、先生一人一人と向き合える
沖縄初の文部科学省事業

11月20日(土)開催
キックオフセミナー

募集要項
仕事内容: 小中学生の放課後学習支援、授業内容の企画
募集対象: 将来教育関係に携わりたいとお考えの方
参加資格: 県内大学生なら誰でもOK
勤務場所: 若狭公民館(交通費支給)
勤務日時: 12月~2月の毎週金曜日(7時~21時)(年6名程度)
参加方法: メールにてご応募ください
【住所】放課後学習プログラム参加希望
【本文】氏名、大学名、学部名
以上の内容11月21日までにお送りください。

学生団体IKAROS 制作/届出済
ikaros.kaiyokushinri@gmail.com
090-9369-9110

1号: 平成26年度文部科学省
「学校と地域の新たな連携体制構築のための実証研究事業」
沖縄県若狭地域教育推進委員会



[事業進捗状況]
11月~2小学校2中学校へのヒアリング実施
12月 8日(月)~チラシ配布
12月19日(土)~学習支援開始
◆希望児童生徒申込み状況:4名(12/11現在)

[事業進捗状況]
11月29日(土)9:00-16:00
キックオフセミナーよりインターンシップ開始
大学生インターンシップ応募数:10名
研修内容:学習支援の必要性・学習支援スキル

カリキュラム開発 実践研究

H26年度文部科学省事業「学校と地域の新たな連携体制構築のための実証研究事業」
若狭エリアをモデルとした学校地域連携型放課後学習支援体制構築プロジェクト [事業スケジュール]

取組内容	内容詳細	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
【取組1】 推進委員会の実施	<p>【テーマ】 『教育協働研修推進委員会』における、協働体制についての検討協議と自査評価</p> <p>【実施概要】 ・年3回開催 ・産学官有識者で構成</p>	<p>【事業調整】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 推進委員会の内容企画 ■ 日程の決定 ■ 委員の依頼・依頼文発行 	<p>第1回 11/19 (日) 16:00-18:00</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 事業内容の共有 ○ ニーズについて確認 ○ 事業評価指標 	<p>第2回 12/13 (土) 9:00-12:00</p> <ul style="list-style-type: none"> ※キャリア教育EXPO内にて公開会議 ・井手教育長(杉並区) ・事業の方向性 	<p>第3回 1/15 (木) 13:30-15:30</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 中間発表 ○ 次年度の取り組み方など検討 	<p>第4回 2/17 (火) 16:00-18:00</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 事業の成果報告 ○ 事業評価 ○ 次年度方向性 		
【取組2】 特別なニーズのある子どもへの学習支援の実施	<p>【テーマ】 「多様な主体の参画で実現する放課後等の支援の充実」についての実証研究</p> <p>【実施概要】 ・若狭公民館をモデル拠点 ・取組3との連動で実施 ・12月～2月</p>	<p>【対象生徒募集】</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 募集内容決定 ■ 期間・日程決定 □ 募集チラシ作成 □ 募集活動 		<p>● 学習支援(全10回/約3か月)</p> <p>第1回目 12/5 第2回目 12/12 第3回目 12/19</p> <p>第4回目 1/9 第5回目 1/16 第6回目 1/23 ★予備日1/30</p> <p>第7回目 2/7 第8回目 2/14 第9回目 2/21 第10回目2/28</p>				
【取組3】 大学生インターンシッププログラムの実施	<p>【テーマ】 連携体制構築を支える「地域課題解決型大学生インターンシップ」の研修カリキュラムの開発</p> <p>【実施概要】 ・10月～2月</p>	<p>【カリキュラム開発】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ インターンシップカリキュラム開発 ■ 日程等確定 ■ 推進委員会での調整報告 <p>【学生募集】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 募集内容決定 ■ 募集チラシ作成 ■ 募集活動 	<p>● インターンシップ(約5か月)</p> <p>学習支援プログラム開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ キックオフ研修 11/29(土) 10:00-16:00 @ 沖縄産業支援センター 4FOCEAN21研修室 			<p>中間発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域円卓会議で中間発表を開催 (2/15予定) 	<p>成果発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ○ 	
【取組4】 地域円卓会議の開発と実施	<p>【テーマ】 『多様な主体の教育参画推進のための円卓会議型地域フォーラム』の実施と検証</p> <p>【実施概要】 ・1月若狭公民館にて実施</p>	<p>【内容調整】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 日程・場所確定 	<p>【内容調整】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 内容企画 ■ 着席者等の調整・依頼 	<p>【募集】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 周知チラシ作成 ■ 周知 	<p>地域円卓会議 2/15 (日) 14:00-17:00</p> <p>【第1部】基調講演 ○ 杉並区教育委員会 【第2部】円卓会議 「学校地域連携の在り方」</p>			
【取組5】 地域人材(家庭・保護者)との関係構築	<p>【テーマ】 地域人材や家庭との連携を図るための『子育て勉強会』の開発と実施</p> <p>【実施概要】 ・1月・2月(全3回)若狭公民館にて実施</p>			<p>【内容調整】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 日程・場所確定 ■ 内容企画 ■ 着席者等の調整・依頼 <p>【募集】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 周知チラシ作成 ■ 周知 	<p>● 子育て勉強会(全3回)</p> <p>第1回目 1/18 第2回目 1/25</p> <p>第3回目 2/7</p>			

資料 3

26 年度文部科学省事業『学校と地域の新たな連携体制構築のための実証研究事業』

沖縄教育協働研究推進委員会

○会議名	平成 26 年度文部科学省事業「学校と地域の新たな連携体制構築のための実証研究」 第 3 回 沖縄教育協働研究推進委員会
○日時	平成 27 年 1 月 15 日（木）13：30-15：30
○会場	若狭公民館研修室
○出席	井上 川上 原田 生重 山里 輿那嶺 照屋 前泊 宮城 平良 川畑 秋吉 (事務局：翁長 金城)

会議次第**1. 開会のあいさつ**

- ・沖縄教育協働研究推進委員会 委員代表 井上講四（琉球大学教育学部教授）
- ・資料確認(事務局より)

2. 事業報告

- ① 【取組 1】 推進委員会（第 1 回・第 2 回）
- ② 【取組 2】 実証研究 [大学生インターンシッププログラムの実施]
- ③ 【取組 3】 実証研究 [特別なニーズのある子どもへの学習支援の実施]

3. 今後の取り組みについて

- ① 【取組 4】 「地域円卓会議」の開催
- ② 【その他】 「子育て勉強会」の開催 ※【取組 3】に関連して
- ③ 【参考】 『おしごと先生プロジェクト』(H26 年度那覇市商工農水課事業)について

4. ディスカッション

- これまでの取り組み、これからの取り組みに対する意見・アドバイス
- 取り組みの持続可能性について

「若狭エリアに【学校と地域の連携】を推進する拠点を残すには」

事務連絡**1. 第 4 回沖縄教育協働研究推進委員会**

○日時：平成 27 年 2 月 17 日(火)16：00 - 18：00 ○場所：若狭公民館研修室

2. 【お願い】 推進委員会[議事録]の確認について

○推進委員会[議事録]につきましては、事業終了時に文部科学省に提出する報告書に掲載され、公開 となる可能性があります。内容についてご確認の上、修正等がございましたら事務局にご連絡ください。

配布資料

[資料 1] 第 3 回沖縄教育協働研究推進委員会 会議次第

[資料 2] [報告書]【取組 1】 推進委員会議事録（第 1 回・第 2 回）

[資料 3] [報告書]【取組 2】 特別なニーズのある子どもへの学習支援

[資料 4] [報告書]【取組 3】 大学生インターンシッププログラムの実施

[資料 5] [開催概要]【取組 4】「地域円卓会議」（概要案）

[資料 6] [開催概要]【その他】「子育て勉強会」（チラシ）※ 4 校に配布済み

[資料 7] [参考]『おしごと先生プロジェクト』 取り組み紹介

議事録	
翁長	学習支援に関しては当初考えていたより子どもたちが集まり正直びっくりしている。学習支援をしている学生団体 IKAROS から現場の話を共有したいと思う。
原田	インターン生は最終的に10名集まった。主に教職を希望している学生を集めた。事前研修①では新任教師になったつもりで自己紹介をした。またNPO学習環境補助カйка堂の佐渡山さんより「学習支援に向けての基礎理解」の研修をもらった。また事前研修②では、いまなぜ学校と地域の連携かについてディスカッションをした。沖縄の学力向上に関しては、大体の学生が「最下位ということに悲観的になる必要はないのではないか。学力以外で強みを伸ばすことができるのではないか」と考える学生が多かった。
生重	内地に行きたいと思う子だけ学力は伸びていくような気がする。それ以外の子は差がついてしまう。
翁長	2月15日杉並区教育委員会の中曽根さんをお呼びして円卓会議を開催する予定。杉並区においての「コミュニティスクール」や「学校支援本部」の事例や成果を学び、沖縄における「学校と地域の連携」のあるべき形を考える。また若狭エリアにおける学校や子どもの現状を共有し、地域における今後の「学校と地域の連携」の在り方考える機会にしたいと思う。
川畑	中学生はそれぞれのテリトリーがあって、中学校ごとの参加はばらつきがあるのかと思う。
生重	塾をいかずに深夜徘徊している子もいる。家で1人であるのが嫌だから外に出る。公民館で学習が広がると繁華街をうろうろしなくなるかもしれない。未来に希望が持てる。今後、保護者との理解や協働などが必要になるのではないかなと思う。また、保護者の方が迎えにくるということもありなのではないか？ PTAさんなどニーズが生まれてきたらあり？
宮城	公民館に来る子はお利口さんが多い。児童館に来る子はやんちゃな子が多い。小学生中学校に入ったなら塾に入ろうかなとわりかし真面目な子が多い。中学生はクセの強い子が多い。高校進学したいけど、塾には通えない。そういう子にとっては大切な取り組みだと思う。
生重	カタリ場が運営するコラボスクールは、震災後の切迫した中でやっている。受験対策をメインにしており、22時まで集中してやっている。送り迎えは専門のドライバーがいる。震災後、子ども達の学習意欲が落ちているため、将来に対する意欲などは効果が出ている。
川畑	学習に来るきっかけは何でもいい。かっこいい兄さん姉さんがいるから行こう的な単純な理由で参加するのも良いと思う。ヤンキーの集団は、リーダー格の子が勉強するよと言ったら全員ついてくる。子ども達の中にあるルールを理解するのはとても大切だと感じる。
翁長	非行気味の子ども達が勉強する場はどうしたら作れるのか、ということを探索してみたい。今回の学習支援にも非行気味の中学生の姿も見られた。やはり高校受験は気になりながらも、塾に行けるわけではない状況がある。松島青年会がヤンキーの子たちをまとめ、地域活動などに引っ張りだしている。OBらの率先により社会の役に立つ活動を経験する。ひとりではできないけど皆では出来るような場が作れたらと思う。
山里	普段学校に来ない子も自治会が松島青年会と一緒に自治会活動をしている。松島青年会がヤンキーたちの面倒をみるので、羽目を外すことがない。
宮城	最近、若狭公民館では青年会活動はしなくなった。
井上	今後、行政が目指していることについて聞きたい。
與那嶺	那覇市は財政的には非常に厳しい状況なので、そのような部分との連携は、今やっていることを継続する上では行政のサポートが必要になってくると思うが、現時点では具体的施策は見えていない。
生重	このような子どもの場合は、大学生とともに漢字の成り立ちや数学からゲームの裏を知るなど、面白みをもたせると良いかもしれない。子ども達は宿題だけをやるのは達成感がない。宿題とは単純な習慣なので、ドリルだけをやるのは面白くないし、達成感もない。両方視野を入れれば、大学生にとっても学びとなる。
井上	教職を目指す大学生に取っても非常に貴重な経験となる。
生重さん	学校支援地域本部は、学校を応援する周辺整備の機能だ。コミュニティスクールの運営委員は準公務員的な役割で、地域特色を求めて、準公務員となっている。 家庭の問題は広範囲で捉えていく必要がある。学校だけの問題ではない。ネグレクトでご飯食べれてない子ども達が、他の子にばれないように朝ご飯たべて学校に行く。いま居る子を救いたい。
翁長	地域での仕組みづくりは、独自性のあるものが良いかなと思う。教育委員会でそのような議論が出ているのか出ていないのか。次回にでも伺えたら良いなと思います。出来れば仕組みとしては行政もいけば心強い。
佐渡山	週2回だと学習指導にばらつきが出てきたり上手に場所が見つかることが出来ない場合がある。問題解決思考型の解決思考アプローチが重要だ。継続性があると面として繋がっていく。
宮城	きっかけを次につなげないといけない。取り組みはしたけれど、失敗のトラウマだけがのこると「やらなければよかった」ということになる。取り組みを継続してそうならないようにしたい。

資料3

山里	先生は孤独だ。皆さんと一緒に考える場がほしい。学力をつけるための生活習慣は大切。
原田	普通のボランティアとは違う突っ込んだインターンシップになっている。僕たちの団体としては、口より先に動いていくスタイルにしたい。
川上	大学生ができることの強みとして考えていきたい。
平良	子どもは未来の宝だと思っている。動いて失敗して、動いていきながら見えるものがあると思う。
照屋	コミュニティスクールなど、那覇市は積極的に動いていこうという現状ではない。家庭など含めて関わるとなると、福祉とも絡んでくることができることから協力したい。
奥那嶺	プロとして高い意識を持ち教えている先生が多い。IKAROSさんにはぜひ今後も頑張ってもらいたい。
生重	今後、教育全体ががらっと変わる時期が来る。次の人材をどう育成していくのか？ 公民館を主軸を若者の居場所づくりに関してさまざまな人たちを巻き込んで出来ると思っている。 様々な可能性が公民館にはある。
前泊	貴重な現場の声を聞いて良かった。那覇市にあったエキスに合わせて今後検討したい。 しかし、2つ課題があると思っていて、1つ目は財政面。選択と集中だと思っている。2つ目は、行政が苦手な横断的な対話の場で、小学校区のコミュニティ事業には様々な部署が関わってくるため。
秋吉	今後、学習支援で送り迎えできない家庭をフォローしていく必要がある。親自身が子どもに関心がない。子どもに興味を持たずに親になってきた。厚労省も就業につなげようと一人親支援をしている。目的は収入をあげるため。決して誰1人とも排除はしてほしくない。
川畑	自分自身、排除をしないひとが地域にいたから立ち直れた当事者だ。教育をするメリットは、どれだけ噛み砕いて子ども達にわかりやすく教えるかは大切。学力の問題が出たが、学力が最下位でもいいとは思わない。他の良い面があったとしても、それに加えて「学力も1位もしてやる」というぐらいの熱意が大切だと思う。
翁長	学校へのヒアリングを通して、学習支援を行う時間に対して、「安全な時間に」という点と、「そもそのその時間は家庭にいるべき時間」という想いがあることを感じた。学校の方針は方針として大切にしつつ、しかし一方で、地域が支援の対象としては、「その時間に親がいない家庭」なども視野に入れなければいけない。家庭の形も多様化しているので、ひとことで「これは家庭の役割だ」と言えないことが課題。



資料 4

学習支援実施の様子

第 1 回

◆児童生徒数	◆IS 数	◆学習支援計画（主な内容）
小学生 22 名 中学生 4名	10 名	○オリエンテーション（IS 自己紹介※新任教師になりきって） ○学習支援（各自持参の宿題）

◆新たに取り入れたこと	◆気付いたこと・課題など
○3～4名児童生徒—1インターン生体制 ○10グループで実施	○思った以上に参加者が多く、教室を分ける必要がある ○学習時間が足りなかった（60分）



第 2 回

◆児童生徒数	◆IS 数	◆支援計画（主な内容）
小学生 22 名 中学生 8名	9名	○子供たちへのアンケート ○学習支援（各自持参の宿題）

◆新たに取り入れたこと	◆気付いたこと・課題など
○アンケートをとして子ども達の現状を把握 ○小、中学生で教室を分けた ○休み時間（10分）の導入 ○プログラム全体の時間を90分に変更	○担当する子ども達を事前に把握したい ○休み時間の使い方が曖昧 ○教えたい教科を教えられない



資料 4

第3回		
◆児童生徒数	◆IS 数	◆支援計画（主な内容）
小学生 21名 中学生 7名	7名	○学習支援(各自持参の宿題、苦手克服)
◆新たに取り入れたこと		◆気付いたこと・課題など
○学習支援の時間（90分）を宿題の時間(40分)、休み時間(10分)、苦手克服の時間(40分)とした ○IS 生向けの事後研修内での講師による講演 講師：佐渡山要(学習環境補助カイカ堂 主宰)		○時間を明確に二つに分けたのは良かったが、もう少しその時間配分を IS 生に意識させる必要がある ○子供たちの苦手を探る必要がある
		
第4回		
◆児童生徒数	◆IS 数	◆学習支援計画（主な内容）
小学生 23名 中学生 4名	10名	○学習支援(各自持参の宿題、苦手克服)
◆新たに取り入れたこと		◆気付いたこと・課題など
○事前に IS 生に目標を明確に設定させ、事後で振り返る		○小学生には鉛筆使うように指示するべきか ○中学生で理系、文系で IS 生を分けて担当したほうがいい
		
第5回		
◆児童生徒数	◆IS 数	◆支援計画（主な内容）
小学生 24名 中学生 8名	9名	○学習支援(各自持参の宿題、苦手克服)
◆新たに取り入れたこと		◆気付いたこと・課題など

資料 4

中学生を教科ごとに分ける IS 生向けの事後研修でディスカッション「叱り方について」	このインターン内での IS 生の立場があやふや(例：子どもたちにどの程度まで叱っていいのか)
---	--



第 6 回

◆児童生徒数	◆IS 数	◆支援計画 (主な内容)
小学生 22 名 中学生 3 名	9 名	○IS 生による 5 分間スピーチ (対象は小学生のみ) ○学習支援 (各自持参の宿題、苦手克服)

◆新たに取り入れたこと	◆気付いたこと・課題など
IS 生による 5 分間スピーチ IS 生向けの事後研修内での講師による講演 講師：翁長有希 (NPO 法人沖縄キャリア教育学習支援ネットワーク)	学年が違う小学生を一つの教室で落ち着かせる必要がある IS 生によって子供たちの反応が大きく違う



第 7 回

◆児童生徒数	◆IS 数	◆学習支援計画 (主な内容)
小学生 23 名 中学生 5 名	9 名	○IS 生によるオリジナル授業 (小・中で別々での授業)

◆新たに取り入れたこと	◆気付いたこと・課題など
IS 生によるオリジナルの授業	○宿題をやる時間を確保できない ○受験生への配慮

資料 4



第8回

◆児童生徒数	◆IS数	◆支援計画（主な内容）
小学生 名	名	
中学生 名		
◆新たに取り入れたこと		◆気付いたこと・課題など

第9回

◆児童生徒数	◆IS数	◆支援計画（主な内容）
小学生 名	名	
中学生 名		
◆新たに取り入れたこと		◆気付いたこと・課題など

資料 6

平成 26 年度文部科学省事業『学校と地域の新たな連携体制構築のための実証研究事業』

地域円卓会議

○取組名	[地域円卓会議] みんなで考える、若狭の未来の作り方～学校地域連携の視点から～
○日時	平成 27 年 2 月 15 日 (日) 14 : 00-17 : 00
○会場	若狭公民館ホール
○内容	◆杉並区における「コミュニティースクール」や「学校支援本部」の事例を学び、 沖縄における「学校と地域の連携」のあるべき形を考える ◆若狭エリアにおける学校や子どもの現状を共有し、地域における今後の「学校と 地域の連携」の在り方を考える機会にする

会議次第(案)**○開会の挨拶**

・若狭公民館 館長 平良恒次

【第 1 部】 基調講演 (30 分)**○基調講演:子どもも大人も楽しい「学校と地域の連携」**

[講師] 杉並区教育委員会 学校支援課教育連携担当係長 中曽根聡 様

【第 2 部】 円卓会議

「地域の子どもは地域で育てる」これからの学校地域連携の在り方

○論点提供:「こども一人ひとりを社会の財産として大切にするために私たち大人に今できること」

[提供者] NPO 法人地域サポートわかさ 公民館事業部部長 部長 宮城潤

②セッション 2 (会場セッション) (20 分、発表 20 分)

○次の一歩を打破するために、課題となること

円卓着席者(案・調整中)

- [論点提供] NPO 法人地域サポートわかさ 公民館事業部長 宮城潤
- 那覇市教育委員会教育委員長 添石幸伸
- 若狭小学校区まちづくり協議会 副会長兼事務局長 玉城成男
- 松島青年会元会長/沖縄県防犯指導員/那覇警察署少年補導員 高吉良輔
- 一般社団法人キャリア教育コーディネーターネットワーク協議会 代表理事 生重幸恵
- 那覇市立若狭小学校 PTA 会長 平良治
- 那覇市立若狭小学校校長 與古田 思信
- 那覇市立那覇中学校校長 山里 望

配布資料

[資料 1] 式次第

[資料 2] 講師・円卓着席者プロフィール

[資料 3] 事業概要説明資料

[資料 4] 基調講演資料「子どもも大人も楽しい『学校と地域の連携』」

関係者が意見を交わす地域円卓会議
115日、那覇市の若狭公民館



地域目線で子育て

若狭 学校との連携探る

那覇市若狭での学校地域連携を模索しようと、沖縄教育協働研究推進委員会主催による地域円卓会議が15日、若狭公民館で開かれた。東京都杉並区教育委員会の中曽根聡・社会教育主事が基調講演し、保護者や住民が学校運営に直接参加する地域運営学校（コミュニティスクール）、住民ボランティアによる学校支援本部設置といった先進事例を紹介した。地域住民や学校関係者が参加し、子どもの成長を家庭や学校だけの責任とせず、地域が関与できる手法について考えた。

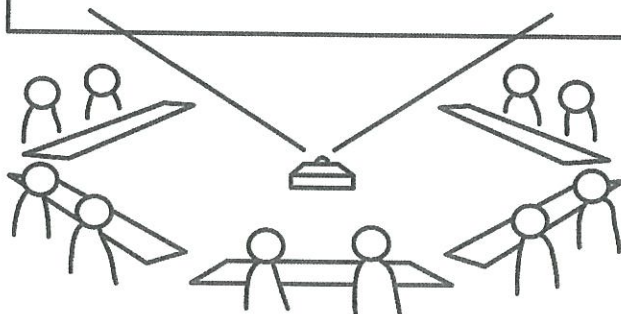
中曽根主事によると、指定校の検証調査では、学校の成績など限られた指標とは違った地域目線を持つようになった教員が子どもへの肯定的評価を高めている。それが子どもの自己の成長への期待感の高まりにつながる好循環も確認された。

キャリア教育コーディネーターネットワーク協議会の生重幸恵代表は「自ら考えて自立する子を育てるためには、学校の外がいかにか充実するかにかかっている」と指摘した。

若狭小学校区まちづくり協議会の玉城成男副会長は学校支援のほかに、独居高齢者対策、海抜の低い若狭の災害時避難地図作成の取り組みなどについても報告した。

地域円卓会議

みんなで考える、
若狭の未来の作り方
～学校地域連携の視点から～



2015年2月15日(日)14:00-17:00
若狭公民館3Fホール

「いい町は、いい学校を創る」をキーワードに、常に学校と地域の連携における先進事例を生み出し続ける杉並区。地域全体で学校や子どもの育ちに、地域住民や団体それぞれの持ち味を生かして関わることで、学校や町がどう変わっていくのか。今、時代の変化の中で改めて見直される「地域のあり方」や「学校と地域の連携のあり方」。杉並区における「コミュニティスクール事業」・「学校支援本部事業」・「すぎなみ大人塾」などの先進事例を学びながら、あらためて若狭地域における「まちづくり」や「学校と地域の連携」について考える。

【開会の挨拶】

那覇市若狭公民館 館長 平良 恒次

【第1部】

基調講演:子どもも大人も楽しい「学校と地域の連携」

講師: 中曽根聡 (杉並区教育委員会 学校支援課教育連携担当係長)

【第2部】

円卓会議:「地域の子どもは地域で育てる」これからの学校連携の在り方 会場全体で考えていきたいと思ひます。是非ディスカッションにご参加ください。

【閉会】

今後の若狭地域の「学校と地域の連携」の取り組みに活かしていきたいと思ひます。
是非アンケートにご協力をお願いいたします。

講師・円卓着席者紹介

基調講演講師

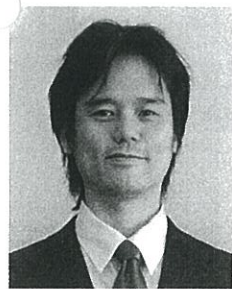


中曽根 聡(なかそね さとし)

杉並区教育委員会学校支援課 教育連携担当係長

杉並区教育委員会で社会教育主事歴 26 年。現在は学校支援課と社会教育センター兼務。1998 年から協働の社会教育事業の面白さに目覚める。2011 年から 2013 年、中央教育審議会臨時委員(生涯学習分科会)。地元西東京市では、公民館運営審議会委員の他、向台畑クラブや NPO 法人子どもアミーコ西東京に関わっている。

円卓着席者



論点提供 宮城 潤(みやぎ じゅん)

NPO法人地域サポートわかさ 公民館事業部部長

2006年、那覇市社会教育指導員として若狭公民館に勤務。2007年から3年間非常勤館長を務める。若狭公民館の一部業務体制移行に伴い受託団体として現職。

2010～2012年、文科省委嘱 社会教育アドバイザー／地域・学校支援推進アドバイザー、2011～2012年沖縄県放課後子どもプラン推進委員。2011年から2013年まで若狭小学校PTA会長。



生重幸恵(いくしげ ゆきえ)

一般社団法人キャリア教育コーディネーターネットワーク協議会 代表

内閣府地域活性化伝導師、第8期東京都生涯学習審議会委員、都社会教育委員、港区社会教育委員、杉並区立天沼中学校・天沼小学校運営協議会委員。PTA会長時代から、学校を支援する活動を積極的に行い、その経験で区内他校PTA会長経験者とともに、2002年に同法人を設立し代表に就任。全国の教育委員会・PTA等主催研修会で講師を務め、運営への助言等を行う。企業の教育支援活動の推進にも助力し、社員研修やフォーラム等を実施。企業の持つノウハウを学校授業につなげるためのプログラム開発を手がける。全国規模での関係者ネットワークを有している。



添石幸伸(そえいし ゆきのぶ)

那覇商工会議所青年部 顧問/那覇市教育委員会委員長

(税)添石総合会計事務所 所長。

平成24年(社)那覇青年会議所理事長。平成25年那覇市商工会議所青年部会長等を務める中、地域企業として企業市民として教育支援やまちづくりに関わり始める。人権擁護員などを経験する中で、学校と地域の連携やより多くの大人が、地域の子どもの育ちに関心を持ち関わるの必要性を感じ発信し始める。平成26年那覇市教育委員長就任。(県教委連会長／九州地区教委連会長／全国教委連副会長)那覇新都心通り会副理事長や、FC琉球の非常勤取締役等も兼務しながら社会一丸となった教育連携を継続中。



平良治(たいら おさむ)

那覇市立若狭小学校PTA 会長

1男1女の父親2002年～那覇市内で美容室経営。2005年～息子が銘苅幼稚園入園をきっかけにPTAに関する。2011年～2013年銘苅小学校PTCA会長。2012年～2014年那覇市PTA連合会副会長。2012年～那覇紙ヒコーキ大会実行委員長。「紙ヒコーキは学級学年PTAを楽しいもの出来るかなあ」をテーマに第三回大会(2014.11)は9小学校が予選大会を開催するに至っています。親子交流・児童交流・学校交流・地域交流を大事に拡げていきたい。

講師・円卓着席者紹介

円卓着席者



高吉 良輔 (たかよし りょうすけ)

松島青年会 元会長/沖縄県防犯指導員/那覇警察署少年補導員

今の子どもたちは何を考えているかわからない、声を掛けるのが怖い。とよく耳にする。「割れ窓理論」というのをご存じだろうか。綺麗なガラス張りのビルに一枚だけ割れた窓をほっておくと何か月もしたら次々と割られていく。これは、犯罪者らがここでは何をしても関心がない、犯罪がやりやすい所と解釈する。このように、我々大人が子ども達や地域に関心がなければ、「まわりは自分達の事を見ていない、何をしても大丈夫」と考え深夜徘徊や、喫煙、飲酒、空き巣など犯罪を犯すであろう。まず変わらないといけないのは今の大人達、是非、勇気を持って「声掛け」をしてもらいたい。



玉城 成男 (たまき しげお)

若狭小学校区まちづくり協議会 副会長兼事務局長

平成16年、沖縄三越退社。
平成17年度から現在まで前島3丁目自治会会長を務める。若狭小学校区まちづくり協議会発足に伴い、副会長と事務局長を兼務。そのほか、平成21年度よりNPO法人地域サポートわかさ理事。



山里 望 (やまざとのぞむ)

那覇市立那覇中学校 校長

那覇中学校は、学校教育目標に「未来を創造する心豊かでたくましく活力に満ちた生徒の育成」を掲げ、目標達成のため日々の教育活動に職員が一丸となってとりくんでいる。そのためには研究、実践、評価を繰り返し、未来を担う子ども達が心豊かにたくましく生きていくための土台づくりに力を傾けていきたい。



與古田思信 (よこたしのぶ)

那覇市立若狭小学校 校長

若狭小学校は、自治会・PTA活動が活発で、幼児・児童のために様々な活動を意欲的に取り組んでいる。特に、毎朝の交通安全指導やあいさつ、励ましの声かけは、多くの交通指導ボランティアの方々に支えられてる。放課後は、若狭児童館、若狭公民館で様々な活動を行っている。本校では、これから生き抜く子どもを育成するとともに来年度より実施される小中一貫教育を見据え、「よく考え進んで学ぶ子」「心豊かで思いやりのある子」「健康で粘り強い子」と学校教育目標の改訂を行った。



コーディネーター 翁長 有希 (おなが ゆうき)

NPO法人沖縄キャリア教育学校支援ネットワーク/(有)オーシャン21

2000年経済産業省事業「地域自律・民間活用型キャリア教育プロジェクト事業」担当者として同社入社。2000年「キャリア教育民間コーディネーター評価・育成手法開発事業」(経済産業省事業)において、キャリア教育コーディネーターの育成手法開発に携わり、自身も2000年に認定取得。県内は、キャリア教育コーディネーターの育成や幼稚園～大学におけるキャリア教育のプログラム開発支援、教育研修等の実績多数。

H26年度文部科学省事業「学校と地域の新たな連携体制構築のための実証研究事業」 若狭エリアをモデルとした、 学校地域連携型放課後学習支援体制構築プロジェクト

事業目的 文科省公募要領より抜粋
未来を担う子どもたちを健やかに育むためには、学校、家庭および地域住民等がそれぞれの役割と責任を自覚しつつ、地域全体で子ども達を育む体制づくりを目指す必要がある。今後、全て学校区に学校と地域が連携・協働する体制を構築し、社会全体で子ども達の教育に取り組み体制づくりを目指す。

事業概要
【取組1】『沖縄教育協働研究推進委員会』の設置と、教育協働体制についての検討協議
【取組2】若狭公民館エリアをモデルとした大学生による「放課後学習支援」プロジェクトの実施検証
【取組3】学習支援を学びの場とした「大学生インターンシップカリキュラム」の開発と実施検証
【取組4】多様な主体の教育促進のための「円卓会議型地域フォーラム」の実施と検証

実施主体
沖縄教育協働研究推進委員会
(委託元:文部科学省生涯学習政策局)

学習支援実証研究 大学生による、小中学生への放課後学習支援プロジェクト (公民館を拠点とし、学校・地域NPO・大学との連携を図る)

学習支援開催概要
◆場所:若狭公民館
◆日時:12月19日~2月(全10回)
◆対象:小学4年生~中学3年生

ぼくたちと宿題一緒にしませんか?

「勉強が苦手」「大学生と勉強したい」
勉強には行ってないけど誰かに勉強を教わりたいか? という小学4年生~中学生、待っています!

大学生が教える勉強会
小学校高学年・中学生対象/無料

勉強が苦手な小学生や中学生の悩みを、大学生が教える勉強会を通じてサポートします。大学生の「勉強の仕方」を伝えます。

個別学習支援や宿題の指導も一緒にできます!

開催期間:12月19日~2月の毎週金曜19時~20時(要予約) 約3か月間の全10回!

参加方法:電話かメールでお申し込みください。
【電話】098-817-3416(若狭公民館)【メール】yurika@citizen-21.jp
※申し込み、学校名・学年・電話番号を添えて下さい。

地域の子は地域全体で育てる。地域公民館・大学・地域NPO・学校などの連携による育ちを促す取り組みの一環です。

平成26年度文部科学省事業「学校と地域の新たな連携体制構築のための実証研究事業」
協働事務局:沖縄教育協働研究推進委員会・若狭公民館・学生団体IKAROS

【事業進捗状況】
11月~2小学校2中学校へのヒアリング実施
12月 8日(月)~チラシ配布
12月19日(土)~学習支援開始
◆希望児童生徒申込み状況:4名(12/11現在)

協働体制づくり

『沖縄教育協働研究推進委員会』の設置と協議 (学校・公民館・地域NPO・大学・PTA等で構成)

実証研究モデルの方向性・評価指標・事業の継続性と汎用性などについて有識者も交え協議

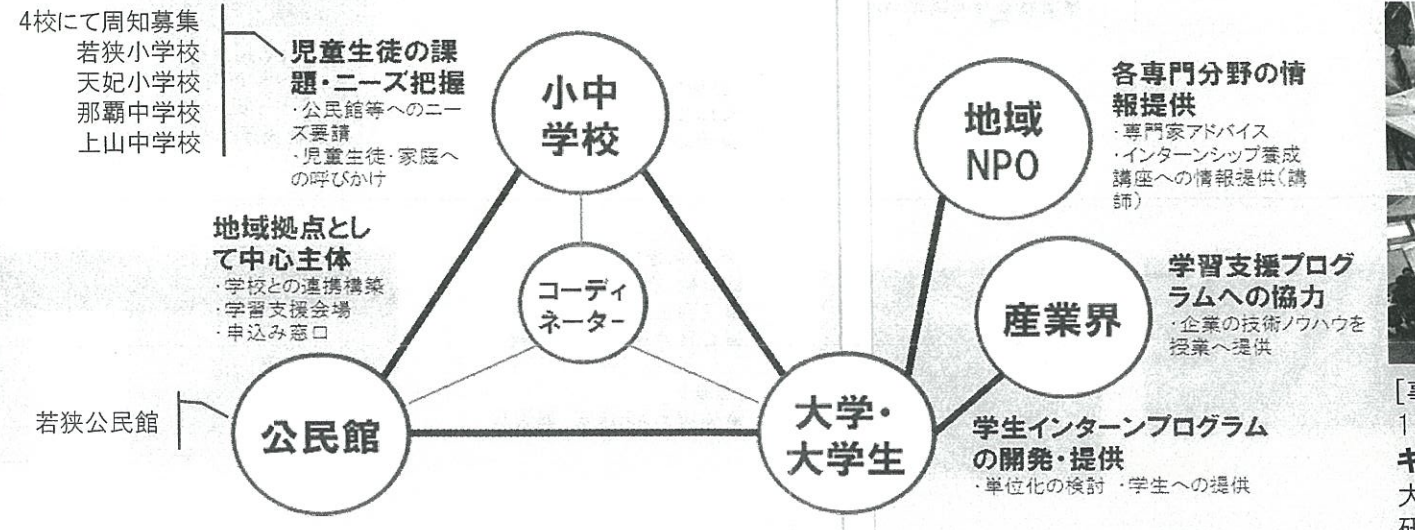
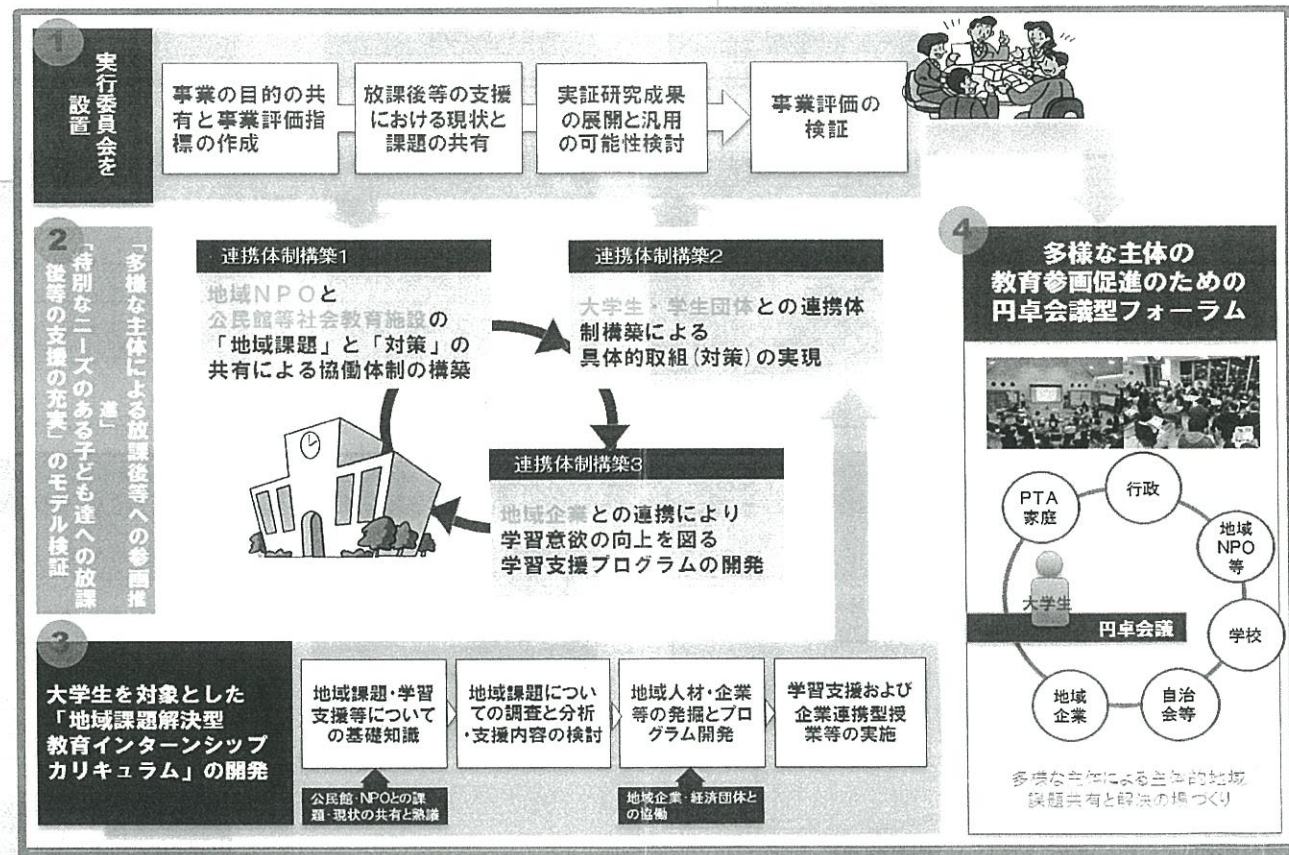
【協議会開催内容】
【第1回】11/18 事業内容の共有・事業方向性の確認
【第2回】12/13 [公開会議]「学校と地域の新たな連携体制の在り方」を学び考える
【第3回】1/15 事業の中間発表・事業評価指標の確認・課題の抽出
【第4回】2/17 連携モデルの汎用性・事業の継続性における課題



沖縄教育協働研究推進委員会メンバー

氏名	所属・役職等
井上 謙四	琉球大学教育学部 地域教育研究室 教授
生重 幸恵	キャリア教育コーディネーターネットワーク協議会代表
宮城 潤	NPO法人地域サポート若狭 若狭公民館事業部 部長
山里 望	那覇市立那覇中学校校長
宮城 祥子	那覇市立上山中学校校長
與儀 茂	那覇市立天妃小学校校長
奥古田 思信	那覇市立若狭小学校校長
平良 治	若狭小学校PTA会長
田端 一正	那覇市教育委員会学校教育部
照屋 満	那覇市教育委員会生涯学習部生涯学習課
秋吉 晴子	しんぐるまざーず・ふぉーらむ沖縄 代表
川畑 彩	NPO法人ELIPO 代表
佐渡山 要	学習環境補助カイク堂 主宰
前泊 美紀	那覇市議会議員
川上 達輝	琉球大学学生団体IKAROS 代表
翁長 有希	NPO法人沖縄キャリア教育学校支援ネットワーク
神部 愛	NPO法人沖縄キャリア教育学校支援ネットワーク

平成26年12月12日現在



3 大学生(主に教職希望学生)のための「地域型学習支援インターンシップ」のカリキュラム開発と実践



教育実習では得られない貴重な体験ができる!
これからの教育に必要なことがリアルに学べる!!
インターン生自らが授業を考える、チームで取り組むから心強い
今教育現場で求められる「地域連携型」授業(キャリア教育)づくりが学べる
少人数制だから、生徒一人一人と向き合える
沖縄初の文部科学省事業

募集要項
仕事内容:小中学生の放課後学習支援、授業内容の企画
募集対象:将来教育関係に進みたいとお考えの方
参加資格:県内大学生なら誰でもOK
勤務場所:若狭公民館(交通費支給)
勤務日時:12月~2月の毎週金曜17時~21時(1年未満は除く)
参加方法:メールにてご応募ください
【件名】放課後学習プログラム参加希望
【本文】氏名、大学名、学部名
以上の内容11月21日までにお願いします。

11月20日(土)キックオフセミナー開催







学生団体IKAROS 担当:藤田明久
〒900-0001 那覇市上原1-1-1 那覇市生涯学習センター
TEL:098-8566-9110



【事業進捗状況】
11月29日(土)9:00~16:00
キックオフセミナーよりインターンシップ開始
大学生インターンシップ応募数:10名
研修内容:学習支援の必要性・学習支援スキル

カリキュラム開発実践研究

H26年度文部科学省事業「学校と地域の新たな連携体制構築のための実証研究事業」
若狭エリアをモデルとした学校地域連携型放課後学習支援体制構築プロジェクト [事業スケジュール]

取組内容	内容詳細	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
【取組1】 推進委員会の実施	<p>【テーマ】 『教育協働研修推進委員会』における、協働体制についての検討協議と自負評価</p> <p>【実施概要】 ・年3回開催 ・産学官有識者で構成</p>	<p>[事業調整]</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 推進委員会の内容企画 ■ 日程の決定 ■ 委員の依頼・依頼文発行 	<p>第1回</p> <p>11/19 () 16:00-18:00</p> <p>○ 事業内容の共有 ○ ニーズについて確認 ○ 事業評価指標</p>	<p>第2回</p> <p>12/13 (土) 9:00-12:00</p> <p>※キャリア教育EXPO 内にて公開会議 ・井手教育長(杉並区) ・事業の方向性</p>	<p>第3回</p> <p>1/15 (木) 13:30-15:30</p> <p>○ 中間発表 ○ 次年度の取り組み方など検討</p>	<p>第4回</p> <p>2/17 (火) 16:00-18:00</p> <p>○ 事業の成果報告 ○ 事業評価 ○ 次年度方向性</p>		
【取組2】 特別なニーズのある子どもへの学習支援の実施	<p>【テーマ】 「多様な主体の参画で実現する放課後等の支援の充実」についての実証研究</p> <p>【実施概要】 ・若狭公民館をモデル拠点 ・取組3との連動で実施 ・12月～2月</p>	<p>[対象生徒募集]</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 募集内容決定 ■ 期間・日程決定 □ 募集チラシ作成 □ 募集活動 		<p>● 学習支援(全10回/約3か月)</p> <p>第1回目 12/5 第2回目 12/12 第3回目 12/19</p> <p>第4回目 1/9 第5回目 1/16 第6回目 1/23 ★予備日1/30</p> <p>第7回目 2/7 第8回目 2/14 第9回目 2/21 第10回目 2/28</p>				
【取組3】 大学生インターシッププログラムの実施	<p>【テーマ】 連携体制構築を支える「地域課題解決型大学生インターシップ」の研修カリキュラムの開発</p> <p>【実施概要】 ・10月～2月</p>	<p>[カリキュラム開発]</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ インターンシップカリキュラム開発 ■ 日程等確定 ■ 推進委員会での調整報告 <p>[学生募集]</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 募集内容決定 ■ 募集チラシ作成 ■ 募集活動 	<p>● インターンシップ(約5か月)</p> <p>学習支援 プログラム開発</p> <p>○キックオフ研修 11/29(土) 10:00-16:00 @沖縄産業支援センター 4FOCEAN21研修室</p>			<p>中間発表</p> <p>○地域円卓会議で中間発表を開催(2/15予定)</p>	<p>成果発表</p> <p>○ ○</p>	
【取組4】 地域円卓会議の開発と実施	<p>【テーマ】 『多様な主体の教育参画推進のための円卓会議型地域フォーラム』の実施と検証</p> <p>【実施概要】 ・1月若狭公民館にて実施</p>	<p>[内容調整]</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 日程・場所確定 	<p>[内容調整]</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 内容企画 ■ 着席者等の調整・依頼 	<p>地域円卓会議</p> <p>2/15 (日) 14:00-17:00</p> <p>【第1部】基調講演 ○杉並区教育委員会 【第2部】円卓会議 「学校地域連携の在り方」</p>				
【取組5】 地域人材(家庭・保護者)との関係構築	<p>【テーマ】 地域人材や家庭との連携を図るための『子育て勉強会』の開発と実施</p> <p>【実施概要】 ・1月・2月(全3回)若狭公民館にて実施</p>			<p>[内容調整]</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 日程・場所確定 ■ 内容企画 ■ 着席者等の調整・依頼 <p>[募集]</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 周知チラシ作成 ■ 周知 	<p>● 子育て勉強会(全3回)</p> <p>第1回目 1/18 第2回目 1/25</p> <p>第3回目 2/7</p>			

生活している人の息づかいが感じられるようなまちづくりを



宮城潤 × 城間幹子 × 高良健 × 系数武

みやぎ じゅん NPO法人 地域サポートわかさ 公民館事業部長 1972年、那覇市生まれ。県立芸大卒業後、前島アートセンターを立ち上げ、若狭公民館館長を経て10年より現職

しろま みぎこ 那覇市長 1951年、那覇市生まれ。宮城教育大学教育学部を卒業。那覇市教育委員会教育長(10年)、那覇市副市長(13年)を経て14年11月より現職

たから たけし 医療法人陽心会理事長 1946年、那覇市生まれ。群馬大学医学部卒業。琉球大学付属病院勤務を経て88年に大道中央病院を開業。現在に至る

いとかず たけし 若狭小学校区 まちづくり協議会会長 1932年、那覇市生まれ。元那覇市本庁舎内自治会長兼会長及び那覇市自治会長連合会会長

今回は、昨年11月に第32代の那覇市長に就任した城間幹子氏が地域活動に取り組み3人の方と那覇市の人材育成についてセッションします。長年にわたり学校教育の現場に身を置いた城間市長ならではのお話が聞けますよ。

教育者出身の市長に高まる期待

高良 那覇市長に就任されて約2カ月になられますね。

城間 そうですね。密度の濃い2カ月ですね。もつと時間が経っているような感じを受けます。前職の副市長の頃から職員との顔は変わっていませんが、職責の重さをひしひしと実感しているところです。私はもともと中学校で国語の教師をしておりまして、高校生の頃から夢であった英語への思いが捨てられず、香港において3年間在外日本人学校で学校長として勤めておりました。その時は長年の夢がかなって満足していたのですが、私自身が自分の進路を選択したのはそこまでです(笑)。その後は、あ

れよあれよという間に那覇市長という道のりを歩むことになりました。

系数 城間市長はもともと教育者でもあるということ、那覇市の人材育成という意味においてとても期待しているところなんですよ。

城間 ありがとうございます。私が考える人材育成というのは、人が生まれた時から始まっています。私自身2人の娘を育てる中で「この子達をどのような形で社会に送り出すか」ということをいつも考えていました。教師時代は思春期の中学生を中心に接してきましたが、これからは赤ちゃんからお年寄りまで市民の皆様の人生全体に接することになります。自分が教育の分野にいたということが、いい方向で作用していくのだろうと考えています。手法としては政治的、行政的になりますが、基本的な考え方として人が生まれてから人生を終えるまでに関わられるということはありがたいことだと思っています。もともと人と関わる職業に就きたいという思いで教師の道を選びましたから。

系数 これからの沖縄は徹底して人材育成をしていくほかにないと私は思っていますので、そのところをぜひお願いしたいと思います。

自分のことを認めきれない子どもたち

宮城 人材育成は地域づくりに必要なものですが、子どもに目を向けるとなかなか難しい環境にあるのかなという思いがあります。というのは、自分のことを認めることができないう子どもが多い。それは貧困であったり格差であったり。そして親も仕事で忙しくて子どもの面倒を見きれない。そういう中で子どもたちは「はたして、自分は家族や社会にとって必要な存在なのか」と不安に思っています。まずは子どもたちが自分を認めることができるようになることが大切ですが、その家庭環境を見ると非常に厳しい現実があります。そこで「地域の子は地域で守り育てる」という考えが出てきます。「これは家庭の問題だから」とか「あなたのしつけが悪い」と済ませるのではなく、子どもは家庭のものであると同時に地域のものであるという認識のもとで子どもたちを支え、育てていくことが必要です。それができるようにすれば、子どもたちは自然に地域のために活動するようになります。家族という狭い単位に問題を押しつけるのはよくない。私たちは地域のネットワークを作ることによって子どもたちがお年寄りを見守っていくことができるように活動しています。

城間 学校は学校で、地域は地域で、家庭は家庭で一所懸命やっていると思うのですが、それぞれの連携が十分でないところがある。子どもたちは完成していない、未成熟です。学校と地域と家庭が連携をとつ

て、子どもたちが「自分は必要とされている」という思いを持てるような社会を作り上げていくことが大切ですね。

高良 それを実現するには、さまざまな職種がそれぞれの業務を通して地域をサポートしていくことが必要になりますね。それらの活動が円滑に進むよう行政にバックアップしていただきたいものです。

市政のキーワードは「ひとつなぎまち」

城間 私は市政のキーワードを「ひとつなぎまち」としています。人と人をつなぐ。人と企業をつなぐ。人と行政をつなぐ。人を大事にする中でつながりを見つけ、つながっていく中でまちづくりができていくという考えです。そこで生活している人の息づかいが感じられるようなまちづくりですね。

高良 なるほど。そういう意味でいうと、まちそのものが家族みたいなもので、私どもが取り組んでいるまちづくりにも合致します。小さな単位のユニットに医療や福祉、商業施設、教育などの必要なパーツがつながり合っているというイメージですね。そういうコミュニティがいくつもできるということです。

宮城 高良理事長のおっしゃるコミュニティづくりでいえば、若狭地区は公民館を拠点に地域が連携して子どもやお年寄りを見守っていく仕組みづくりやコーディネートに取り組んでいます。今後はそれが機能するように活動していきます。

系数 私は社会福祉協議会と地域、医療機関が一体となつてものごとを進めなくては

けないのではと考えています。地域の高齢者の介護認知症問題が今後ますます深刻になってきますからね。

城間 それはまさに本市でも問題になってきます。那覇市では独自に第6次高齢者プランということで認知症の早期対応ができるように予算も確保しながら、地域の相談員を地域包括支援センター12カ所に1人ずつ配置するようにしています。お年寄りの方にそれらしい徴候が見られた時の対応を相談できるようなシステムですね。介護施設の方々と情報交換しながら、那覇市としてしっかり対応していきます。ただし現場には民生委員や児童委員の方々がいらっしやいますので、その方々をうまく活用していかなければいけません。

高良 そうですね。資源は現場にあるということ、まちづくりは現場にある資源をうまく活用することが大切です。民生委員の方には世話好きの方も多いため、そういう方々をスペシャリストに仕上げていくと。また、高齢者に関しては「60歳を過ぎたから生きがいづくり」ということではなく、若い頃にできたことを90歳になってもできる。それぞれの能力を活かしている。それを若い人がサポートする。私どもは医療という観点から地域を見守っていくということになりますね。

城間 おっしゃるとおりですね。地域の構成員がお互いにつながり合い、まちをつくるっていく。そのためには今日お集まりいただいた皆様の存在が欠かせません。これからもご協力よろしく願っています。

一同 よろしく願っています。

医療法人 陽心会

理事長 高良 健

- (提携) ヒルズガーデンクリニック 那覇市松川20-1 TEL.098-885-0333
- (提携) ヒルズガーデン那覇 那覇市松川20-1 TEL.098-885-0300
- 介護老人保健施設 やすらぎの里 那覇市安里3-157 TEL.098-869-0030
- 在宅総合ケアセンター陽心会 那覇市安里381-1 TEL.098-885-0030
- 大道老人訪問看護ステーション 那覇市大道128 TEL.098-885-2885
- グループホームたかまーみの家 那覇市安里3-147 TEL.941-0080
- (提携) 那覇市地域相談センター 那覇市首里末吉4-6-1大明ビル4F TEL.098-885-0178
- 那覇市首里末吉2-14 TEL.098-886-3510
- (提携) 有料老人ホーム徳寿の社 那覇市安里3-147 TEL.098-941-0070
- デイサービスセンター安里 那覇市安里388-5 TEL.098-886-0328
- デイサービスセンター三原 那覇市三原1-31-20 TEL.098-840-0051
- 辻町若狭クリニック 那覇市若狭3-5-17 TEL.098-869-0012
- (提携) 小規模多機能型ホーム若狭 那覇市若狭3-4-10 TEL.098-951-0550
- (提携) 地域交流センター若狭 那覇市若狭3-4-10 TEL.098-951-0552
- (提携) グループホーム若狭の家 那覇市若狭3-4-10 TEL.098-951-0551
- 登川老人福祉センター 那覇市登川2-3-11 TEL.098-853-1139

- 大道中央病院 那覇市安里1-1-37 TEL.098-869-0005(代)
- 美容形成部門 TEL.098-869-0066
- リハビリテーション部門 TEL.098-869-0050
- メディカルプラザ大道中央 那覇市学大道123 TEL.098-886-0007(代)
- 一般内科部門 TEL.098-869-0711
- 循環器部門 TEL.098-886-0072
- 糖尿病部門 TEL.098-886-0115
- 人工透析部門 TEL.098-886-5151
- 検診部門 TEL.098-886-0078
- 小規模多機能型ホーム大道 那覇市大道94-3 TEL.098-885-0018
- 地域交流センター大道 那覇市大道94-3 TEL.098-885-0056
- グループホーム大道が丘 那覇市大道94-3 TEL.098-885-0036
- (提携) メディカルエステ大道 那覇市安里3-1-3 TEL.869-0018
- (提携) 福祉用具貸与・販売事業所 那覇市安里128 TEL.098-885-0100